市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－①	地下水保全調査事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第6章-3-(4)-ウ 生活環境基盤等の整備・充実
担当部課名	水道部　水道総務課	事業実施（予定）年度	平成29年～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１０－(1)
事業内容	地下水を唯一の淡水資源とする本市では、水道水源の保全が社会の成立案件となっていることから、持続的な社会を構築するため、地下水の保全に取り組むための境界位置精度向上調査を行う。 白川田地下水流域内及びその周辺において、水源開発の可能性を探るために流域北部及び流域中央部の水理地質構造の把握とともに、流域境界位置精度向上並びに地下水賦存量精度向上のための調査を行う。				
効果発現年度	□当年度　　■後年度（令和7年度）				
実施方法	□直接実施　　■委託　　□補助　　□負担　　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	89,595	67,524	34,991	99,979	79,986
	(b) 予算現額	110,612	76,154	48,365	97,900	79,986
	(c) 増減額 (b-a)	21,017	8,630	13,374	▲ 2,079	0
	(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)	110,612	76,154	48,365	97,900	79,986
B. 執行済額		110612	76154	48365	97,900	78,870
うち交付金充当額		88489	60923	38692	78,320	63,096
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.6%
予算の状況の説明		令和6年度当初予算額79,986千円であったが、入札残により、事業費78,870千円（▲1,116千円）となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
①白川田地下水流域水源開発可能性・流域界位置等精度向上調査	目　標	（伊良部島水源開発調査）	（東添道地下水流域界位置精度向上調査）	（平良・東添道地下水流域界位置精度向上調査）	（白川田地下水流域水源開発可能性・流域界位置等精度向上調査）
	実　績	伊良部島水源開発調査実施	東添道地下水流域界位置精度向上調査実施	平良・東添道地下水流域界位置精度向上調査実施	白川田地下水流域水源開発可能性・流域界位置等精度向上調査実施
達成状況説明		本年度の調査では、白川田地下水流域及びその周辺において、境界位置精度向上のための地質調査として、ボーリング調査、地下水位観測等を行った。			

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
①白川田地下水流域の境界位置精度向上調査の完了	目　標	（　）	（東添道地下水流域界位置精度向上調査完了）	（平良・東添道地下水流域界位置精度向上調査完了）	（白川田地下水流域水源開発可能性・流域界位置等精度向上調査完了）	（　）
	実　績		完了（東添道地下水流域界位置精度向上調査完了）	完了（平良・東添道地下水流域界位置精度向上調査完了）	完了（白川田地下水流域界位置精度向上調査完了）	
【R5年度後年度成果目標】 平良・東添道地下水流域の面積の特定	目　標	（　）	（　）	（　）	（平良・東添道地下水流域の面積の特定）	（　）
	実　績				13.02k㎡ →12.97k㎡ （0.05k㎡減）	
進捗状況説明		当初の予定どおり、白川田地下水流域の境界位置精度向上調査を完了することができた。また、R5年に設定していた後年度成果目標の「平良・東添道地下水流域面積の特定」に関しては、東添道地下水流域において調査結果から変更前13.02k㎡→変更後12.97k㎡となり0.05k㎡減少する見通しとなった。				

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平良・東添道地下水流域界位置精度向上調査においては、令和5年度の調査結果も踏まえ、新たに流域境界の南西部方面で6箇所のボーリング調査を行った。その結果、東添道地下水流域の面積は変更前13.02k㎡→変更後12.97k㎡となり0.05k㎡減少する見通しとなった。また、平良地下水流域の南西部（宮古空港より北西側）において地質データの蓄積により管理上の流域界が約300m狭まる見通しとなった。 白川田地下水流域境界位置精度向上調査においては、流域北部及び東部流域界付近で54箇所のボーリング調査と地下水観測を行なった。調査の結果、白川田水源地よりも北側に断層が延長していること、未確認の断層が確認され、地下水の流れについても流域界にて分岐している事が判明した。また、地下水流域の面積は変更前12.14k㎡→変更後12.01k㎡となり0.13k㎡減少する見通しとなった。	本業務の調査の結果、白川田地下水流域の境界位置はかなり高まったと考えられるが、更なるボーリング調査を行ない、白川田水源地より北側の断層沿いの境界域、北西端の2本の断層に挟まれた境界域、北側の流域界について境界位置の精度を向上する必要がある。 また、白川田地下水流域最下流部の位置を把握するため、2 つの湧水のうち、水源地創設時期が古いために湧水口等の詳細が不明な山川湧水について、その取水構造を把握する必要がある。

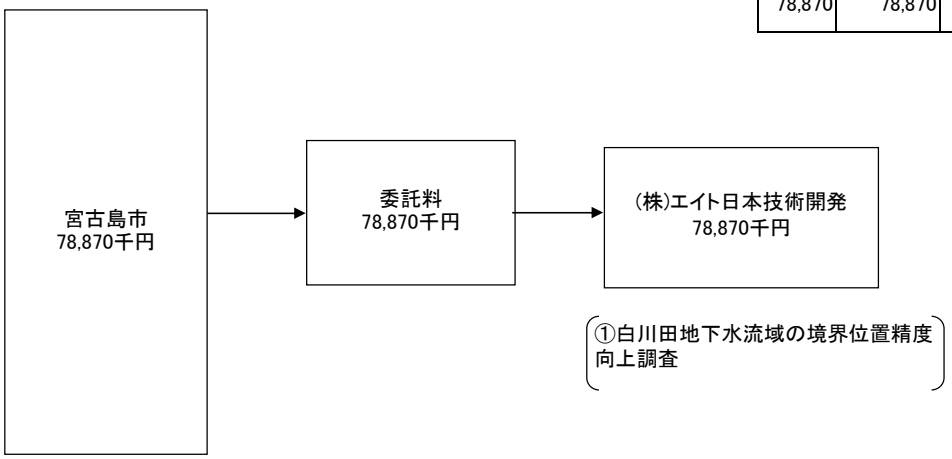
今後の取り組み方針

水道水源保全地域に指定されている東添道地下水流域、白川田地下水流域、平良地下水流域等において、水源開発の可能性を探るため、ボーリング調査を実施し、水理地質構造の把握、流域境界位置精度向上調査並びに地下水賦存量精度向上に努めていく。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
78,870	78,870	63,096	15,774	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○専門的な調査内容であり、適正であると考える。 ○費目、使途については支出等に関する書類により確認し、適当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	地下水質モニタリング調査事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第6章-3-(4)-ウ 生活環境基盤等の整備・充実
担当部課名	水道部　水道総務課	事業実施（予定）年度	令和6～令和10年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-(1)

事業内容

地下水を雄一の淡水資源とする本市では、水道水源の保全が社会の成立要件となっていることから、持続的な社会を構築するため、地下水を保全する取り組みを積極的に推進する。
本市の水道水源である地下水から、有機フッ素化合物及びネオニコチノイド系農薬類が微量ながら検出されており、このことに市民は不安を抱いている。濃度としては、国の定める目標値を大きく下回っており健康影響はないものと考えているが、地下水質モニタリングを実施し状況を把握し市民に対し丁寧に説明することで不安の払拭につなげたい。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R6年度				
予算の状況	(a) 当初予算額	18,590				
	(b) 予算現額	18,590				
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)	18,590	0	0	0	0
B. 執行済額		15,840				
うち交付金充当額		12,672				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		85.2%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：令和6年度当初予算18,590千円に対し、入札残により事業費15,840千円となり、▲2,750千円の不用が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R6年度			
1）地下水質に含まれる有機フッ素化合物類及びネオニコチノイド農薬類の汚染状況把握のために、水道水源流域内にて、地下水及び浄水の水質検査を行う	目　標	地下水及び浄水の水質検査を実施	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	地下水及び浄水の水質検査を実施			

達成状況説明：地下水（水道水源）13地点及び浄水（給水末端）3地点の合計16地点において年4回（5月、8月、11月、2月）の、有機フッ素化合物（2項目）及びネオニコチノイド農薬類（14項目）に関する水質検査を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R6年度			目標値（　年度）
1）有機フッ素化合物及びネオニコチノイド系農薬類検査の完了	目　標	（　　）	（検査の完了）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		検査の完了			

進捗状況説明：地下水（水道水源）13地点での検査結果では地域ごとの傾向を見ることができ、浄水（給水末端）3地点では農薬類の二成分について微量ながら検出された。また年間を通した四半期ごとの検査により、各季節の詳細な数値が得られた。全体的に農薬類で4成分が検出され増減はあるものの微量なレベルを推移していることが確認された。
本事業で得られた結果は、水道部HPを通じて市民に公表したり、議会資料として活用するなどした。

取組の検証	**推進上の留意点**（推進上の問題、外部環境の変化）	**改善余地の検証**（効率の更なる向上の視点）
	地下水水質の変動は、ある程度の年月を要するものであるが、本事業はまだ1年実施しただけであるので、中長期的な変動傾向はつかめていない。 本事業により得られるデータは1,024個（16項目×16地点×年4回）にのぼり、またナノグラムレベルの微量分析であるので、市民に伝わりにくい可能性がある。	中長期的な増減傾向が未だ不明であるので、今後も継続調査を実施し、これを明らかにする。 市民への公表方法を工夫する。

今後の取り組み方針

今後も本事業を継続して実施し、その結果を市民に公表し不安払拭に努める。公表に際しては、グラフ化するなどわかりやすさに努める。
有機フッ素化合物、及びネオニコチノイド系農薬類について、設定されている目標値や分類の変更が今後なされる可能性もあるので、注意深く情報収集を図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,840	15,840	12,672	3,168	0

有機フッ素化合物及び
ネオニコチノイド農薬類検査委託業務

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は随意契約であるが、県内にネオニコチノイド系農薬類を本市の要求する精度まで測定可能な分析機関が当該機関のみなので、妥当であると考える。 ○微量分析であるので適正であると考える。 ○費目、使途については支出等に関する書類により確認し、適当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－①	観光地アクセス道路環境美化路線強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－１－（１）－ウ 人と環境に優しいまちづくりの推進
担当部課名	建設部　道路建設課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（１）
事業内容	美しい島づくりを推進するため、観光アクセス道路（主要道路32路線）の街路樹の枝剪定・除草・清掃等を行う。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況 (a) 当初予算額	42,559	50,768	50,222	91,080	93,118
予算の状況 (b) 予算現額	43,048	51,598	49,225	77,907	59,703
予算の状況 (c) 増減額 (b-a)	489	830	▲ 997	▲ 13,173	▲ 33,415
予算の状況 (d) 繰越額	0	0	0	0	0
予算の状況 A. 計 (b+d)	43,048	51,598	49,225	77,907	59,703
B. 執行済額	41,481	46,142	47,656	76,791	57,471
うち交付金充当額	27,905	32,016	36,913	59,016	45,977
次年度繰越額	0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）	96.4%	89.4%	96.8%	98.6%	96.3%

予算の状況の説明：予算現額95,670千円に対し、委託費の設計変更、入札算等で▲33,415千円の減となり、執行額は57,471千円と執行率は96.3%となった。

活動目標（指標）及び達成状況

R4活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
観光地アクセス道路の環境美化の実施 32路線	目　標	（　作業実施　）	（　作業実施　）	（　作業実施　）	（　作業実施　）
	実　績	作業実施	作業実施	作業実施	作業実施

達成状況説明：宮古島市の主要観光地へのアクセス道路環境美化を図るため、市道32路線を選定し、直接作業で8名雇用、道路清掃作業、並びに温水除草の委託業務を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R4成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
観光地周辺について、観光地としてふさわしい道路環境及び景観であるか(80%)を含め、観光客を対象としたｱﾝｹｰﾄにより、本事業のあり方について検証する。	目　標	（　）	（　80%　）	（　80%　）	（　80%　）	（　）
	実　績		94.2%	83.6%	96.7%	

進捗状況説明：宮古島市観光客アンケートを実施した結果、目標値である80%を上回り、約96．7%がやや満足・大変満足だと回答した。
観光アクセス道路の環境美化作業を実施することで観光地として、魅力的な景観形成が図られている。

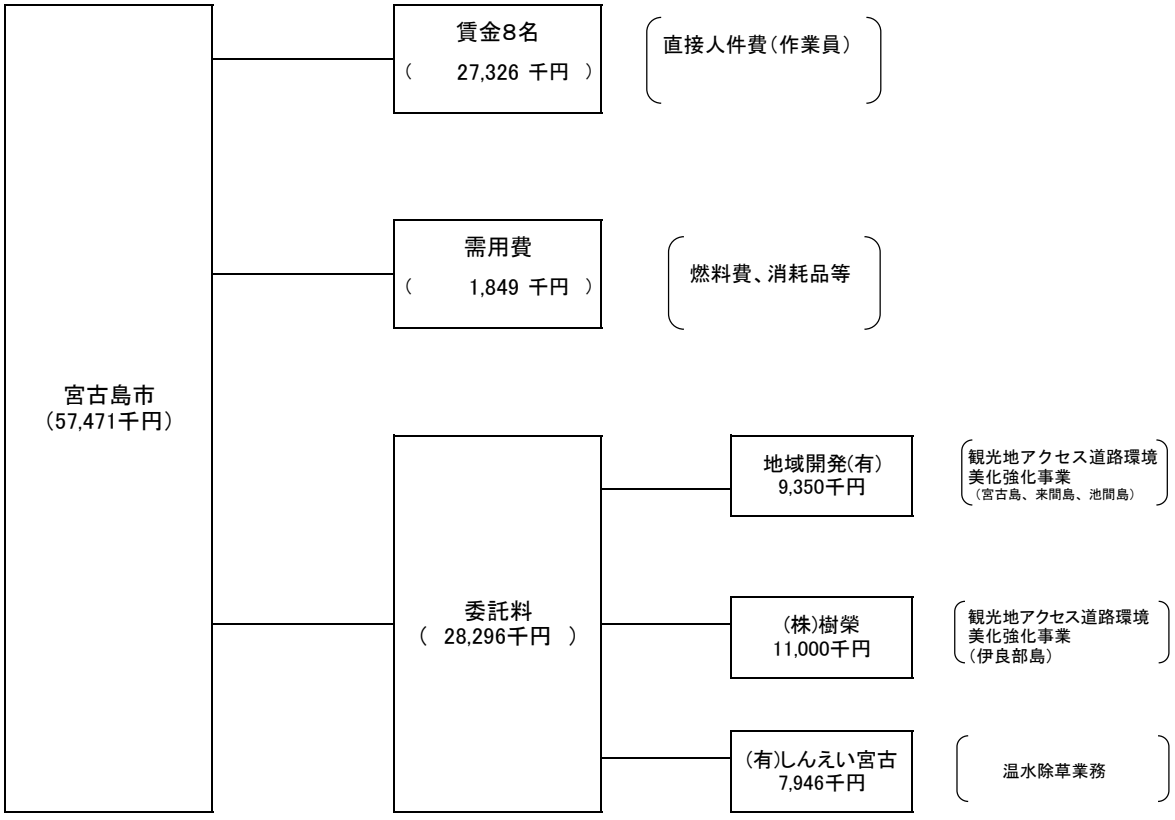
取組の検証	**推進上の留意点**（推進上の問題、外部環境の変化）	**改善余地の検証**（効率の更なる向上の視点）
	亜熱帯性気候で植物が繁茂しやすく、台風襲来後や豪雨時の路面への石粉の流出・堆積が多く、観光地としての景観維持や安全安心な観光地として道路の安全性を確保する必要がある。 来島する観光客の多くが満足している値として、満足度80%を設定した。満足度目標値は達成できており、適切な回数、頻度での美化活動ができた結果が現れている。	観光客満足は目標値を継続して上回っており、適切な回数、頻度での美化活動ができておりその点については、継続して取り組んでいく必要がある。 優先的に環境美化を実施する路線を見直し、作業環境の改善及び人員を確保し、必要に応じた配置等を行う。

今後の取り組み方針

街路樹の枝の剪定、立ち枯れ等の倒木の危険性のある街路樹の早期発見、早期撤去を行い、観光アクセス道路の安全管理と更なる環境美化を図っていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
57,471	57,471	45,977	11,494	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○賃金職員は、本市条例・規則に基づき審査、決定しており妥当である。 ○台風等の災害で出勤できない不測の日が生じたが、予算規模は適切だった。 ○費目、使途については支出等に関する書類により確認し、適当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－②	観光地公園環境美化強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－１－（１）－ウ 人と環境に優しいまちづくりの推進
担当部課名	都市計画課／観光商工課	事業実施（予定）年度	平成24年～令和13年	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（１）
事業内容	美しい島づくりを推進するため、宮古島観光地公園5箇所（東平安名崎公園、パイナガマ公園、カママ嶺公園、大嶽城趾公園、サニツ浜公園）及び伊良部島観光地公園7ヶ所（サバオキ公園、フナウサギバナ、白鳥公園、通り池、佐和田の浜、渡口の浜、牧山公園）の観光地として利用されている公園の環境美化清掃を行う。				
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	22,913	24,552	28,859	29,005	29,440
	(b) 予算現額	22,307	22,890	27,515	27,873	27,631
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 606	▲ 1,662	▲ 1,344	▲ 1,132	▲ 1,809
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	22,307	22,890	27,515	27,873	27,631
B. 執行済額		22,307	22,890	27,515	27,873	27,631
うち交付金充当額		17,845	18,311	22,012	22,298	22,104
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		入札残のため、3月補正で1,809千円の減額を行った。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
観光地公園12ヶ所の環境美化作業実施	目　標	（　12箇所　）	（　12箇所　）	（　12箇所　）	（　12箇所　）
	実　績	12箇所	12箇所	12箇所	12箇所
【参考指標】 定期的美化作業 宮　古　島：年12回 伊良部島：年4～5回	目　標	宮古島：年12回 （伊良部島：年4～5回）	宮古島：年12回 （伊良部島：年4～5回）	宮古島：年12回 （伊良部島：年4～5回）	宮古島：年12回 （伊良部島：年4～5回）
	実　績	宮古島：年12回 伊良部島：年4～5回	宮古島：年12回 伊良部島：年4～5回	宮古島：年12回 伊良部島：年4～5回	宮古島：年12回 伊良部島：年4～5回

達成状況説明：宮古島観光地公園5箇所（東平安名崎公園・パイナガマ公園・カママ嶺公園・大嶽城趾公園・サニツ浜公園）においては、それぞれ月1回の美化作業を実施した。
伊良部島観光地公園は7箇所（サバオキ公園4回、フナウサギバナ5回、白鳥公園5回、通り池5回、佐和田の浜5回、渡口の浜4回、牧山公園5回）の美化作業を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
観光地公園について、観光地としてふさわしい景観であるか(80%)を含め、観光客を対象としたアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目　標	（　）	（　80%　）	（　80%　）	（　80%　）	（　）
	実　績		94.2%	94.8%	94.9%	

進捗状況説明：環境美化について宮古、下地島両空港にて観光客にアンケートを実施した結果、目標値である80%を上回り、約94．9%が満足だと回答した。
観光地公園の環境美化作業を実施することで観光地として、魅力的な景観形成が図られている。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・アンケート調査の結果、景観について目標値である80%以上の約94.9%が満足と回答しているが、利用した施設（トイレ・シャワー等）については、「不満」、「やや不満足」との回答が13.3%ある。	・梅雨など時期によっては、草木の成長が早く、除草回数の検討が必要である。 ・園内ゴミ拾いにおいても、時期によって回数を変更するなど、効率的な環境美化が必要である。

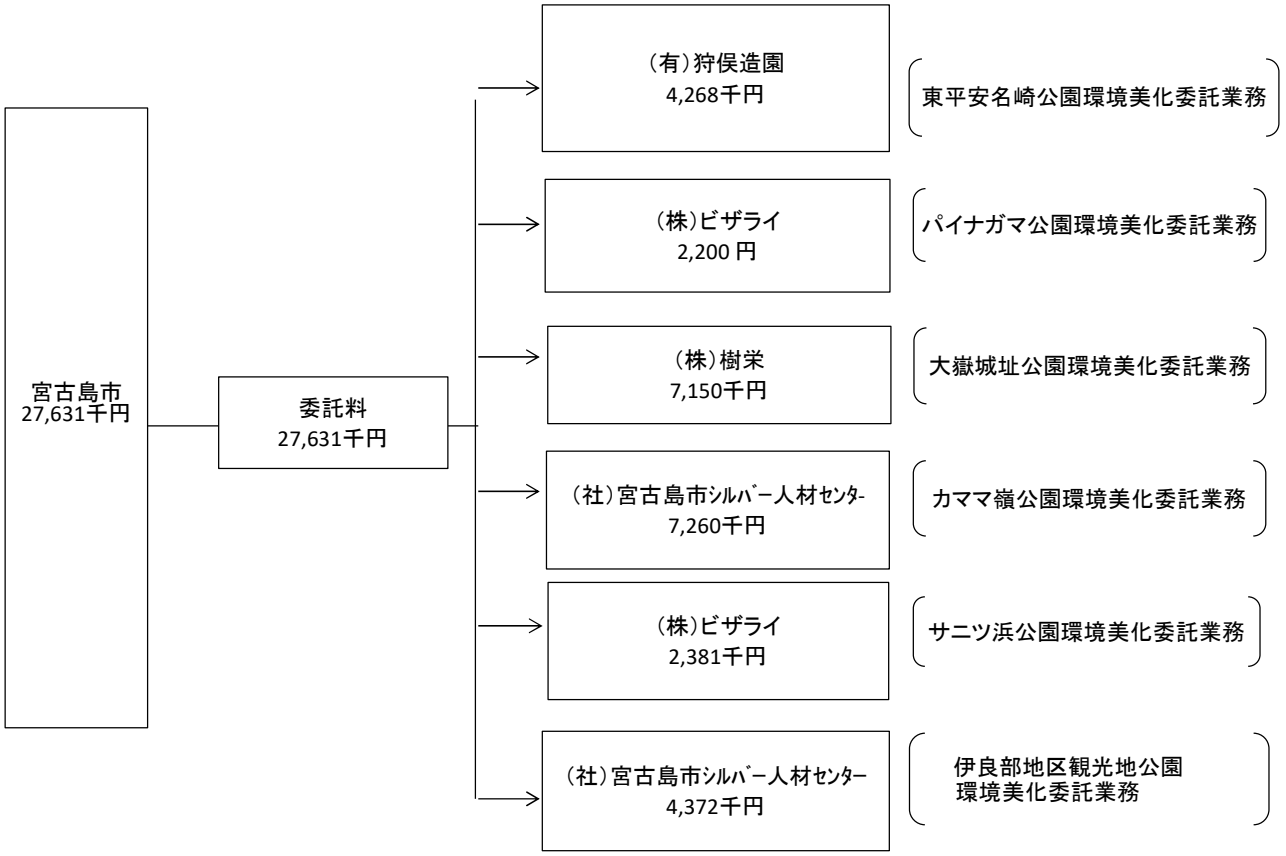
今後の取り組み方針

時期によって、除草やゴミ拾いの回数を検討することで、効率的に魅力ある観光地公園として環境美化の向上を図る。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
27,631	27,631	22,104	5,527	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は公募、指名競争入札等により適切に決定しており妥当である。 ○年度途中での減額は発生したが、入札残によるもののため予算規模は適切であった。 ○費目、使途については支出等に関する書類により確認し、適当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③	宮古島市観光景観形成推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－３－（２）－ア 「新しい生活様式/ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進
担当部課名	建設部　道路建設課	事業実施（予定）年度	令和2～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（１）
事業内容	景観に配慮した風景を形成しさらなる観光地としての魅力向上を図るため、電線類を地中化することで無電柱化を図る。				
効果発現年度	□当年度　　■後年度（　令和7年度）				
実施方法	□直接実施　□委託　□補助　□負担　■その他（　補償　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度
予算の状況 (a) 当初予算額	59,560		151,666		19,783
予算の状況 (b) 予算現額	51,926		151,666		17,558
予算の状況 (c) 増減額(b-a)	▲ 7,634	0	0	0	▲ 2,225
予算の状況 (d) 繰越額		51,926		151,666	0
予算の状況 A. 計(b+d)	51,926	51,926	151,666	151,666	17,558
B. 執行済額	0	51,926	0	125,897	17,558
うち交付金充当額	0	41,080	0	97,957	14,046
次年度繰越額	51,926	0	151,666	0	0
執行率（%）(B/A)	0.0%	100.0%	0.0%	83.0%	100.0%
予算の状況の説明	現場状況によりガードパイプ等が不要になったことから、2,225千円の減額となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
電線類地中化工事の実施	目　標	引込管路設置工事の実施、幹線部（電線）実施設計の実施	地上機器購入の実施、引込ケーブル設計の実施	沖縄電力、NTT電線類地中化工事の実施	宮古テレビ電線類地中化工事の実施
	実　績	引込管路設置工事の完了、幹線部（電線）実施設計の完了	地上機器購入の完了、引込ケーブル設計の完了	沖縄電力、NTT電線類地中化工事の完了	宮古テレビ電線類地中化工事の完了
達成状況説明	R6年度宮古TV既設ケーブル地中化工事の完了。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（7年度）
電線類地中化工事の完了	目　標	（　）	地上機器購入の完了、引込ケーブル設計の完了	沖縄電力、NTT電線類地中化工事の完了	宮古テレビ電線類地中化工事の完了	（　）
	実　績		完了	完了	完了	
【R7成果目標】 近隣観光施設利用者を対象として、観光地としての魅力向上が図られたか（80%以上）を含め、アンケートにより本事業のあり方について検証する。	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	80%以上
	実　績					
進捗状況説明	令和6年度において、電線類地中化工事が完了した。沖縄電力株式会社による抜柱が完了次第、アンケートにより事業のあり方について検証する。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・令和5年度は半導体不足による納品遅延の影響により業務進捗の遅れが発生し、令和6年10月に完了した。	令和6年度は早期の契約締結により工期を確保したことで年度内完了することができた。

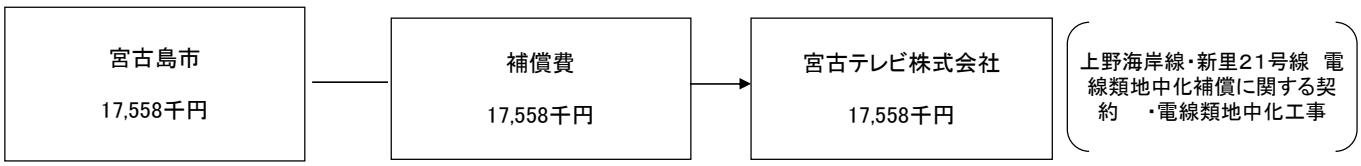
今後の取り組み方針

令和6年度において電線類地中化工事が完了した。沖縄電力株式会社による抜柱が完了次第、アンケートにより事業のあり方について検証する。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
17,558	17,558	14,046	3,512	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補償契約は電線管理者である宮古テレビ株式会社と締結しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑤	伊良部屋外運動施設整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－（2）－ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	観光商工部　スポーツ振興課	事業実施（予定）年度	令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	伊良部屋外運動施設に新設された多目的屋内運動場の供用開始に伴い、備品等を整備する。				
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R6年度				
予算の状況	(a) 当初予算額	31,290				
	(b) 予算現額	19,229				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 12,061				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	19,229				
B. 執行済額		19,229				
うち交付金充当額		15,382				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明

伊良部屋内運動場の完成に伴って、トレーニングルーム室内の面積や利用頻度を考慮し、当初購入予定だった備品の見直しをおこなった。人工芝保守用機材の購入に関して、屋内運動場が完成してから現在まで、施設内の利用頻度が少ない事から、現状人工芝の整備を行う予定が無いため、備品リストから外した。
また、ジム関係者等話を伺いながらトレーニング機材の見直しもおこない、野球キャンプ利用に適した機材の調整をおこない、当初予定していた機材の変更をしたため、伊良部屋外運動施設整備事業費▲12,061千円を減額した。

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R6年度			
備品納入	目　標	（　備品納入　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	備品納入			

達成状況説明：伊良部屋内運動場の完成に伴って、トレーニングルーム室内の面積や利用頻度を考慮し、当初購入予定だった備品の見直しをおこなった。ジム関係者等話を伺いながらトレーニング機材の見直しを行い、野球キャンプ利用に適した機材の調整を進めて備品購入を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R6年度			目標値（　年度）
・プロ野球キャンプ誘致　1団体以上	目　標	（　　）	（ 1団体以上 ）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		1団体			
・社会人・大学強豪チームのキャンプ誘致　1団体以上	目　標	（　　）	（ 1団体以上 ）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		1団体			

進捗状況説明：プロ野球チームでは韓国の斗山ベアーズ、社会人チームからは茨城アストロプラネッツを誘致した。

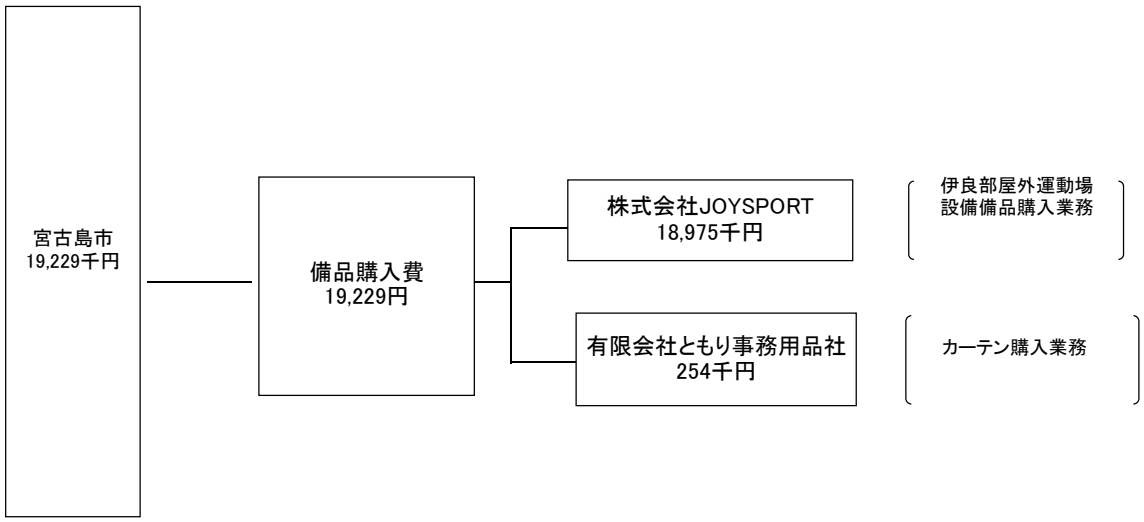
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	備品購入にあたり、野球キャンプ誘致や施設利用者の向上に繋がるが、器具の劣化によるメンテナンスや、利用者のケガや事故等の対策が必要になってくる懸念がある。	今後施設の指定管理等を行い、器具のメンテナンスやケガ、事故等の防止を行う人員の配置や器具を安全に使用するマニュアルを作成する。

今後の取り組み方針

引き続き、器具のメンテナンスを行いながら利用者やスポーツ合宿誘致促進に向けたパンフレット等を作成し、多くの利用者に器具を利用してもらえるよう取り組みを行っていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,229	19,229	15,382	3,846	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○備品購入事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑥	賑わいのまちづくり事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－（2）－（ウ） 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	建設部　都市計画課	事業実施（予定）年度	平成28～令和7年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	中心市街地活性化を図るため、イベント等の開催の利用、まち歩き観光の休憩利用など、市民・観光客の交流拠点として賑わいの創出が可能となる広場整備を行う。				
効果発現年度	□当年度　　■後年度（令和8年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　■その他（　公有財産購入　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R6年度				
予算の状況	(a) 当初予算額	32,153				
	(b) 予算現額	32,153				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	32,153				
B. 執行済額		32,153				
うち交付金充当額		25,722				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初予算設定時から金額の変更は無く、執行率100%となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R6年度			
公有財産購入（1筆）	目　標	（公有財産購入1筆）	（　—　）	（　—　）	（　）
	実　績	公有財産購入1筆	—	—	
達成状況説明	・土地所有者と順調に調整を行い、滞りなく用地売買契約が締結された。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R6年度	目標値（R8年度）		
公有財産購入の完了	目　標	（　）	（　完了　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		完了			
イベント等の開催（宮古島夏祭り）	目　標	（　）	（　）	（　1回　）	（　）	（　）
	実　績					
イベント等の開催（フリーマーケット）	目　標	（　）	（　）	（　12回　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	・令和8年度の供用開始に向け、令和6年度は当初予定通り土地の取得を行った。令和7年度は公園整備を実施する。					

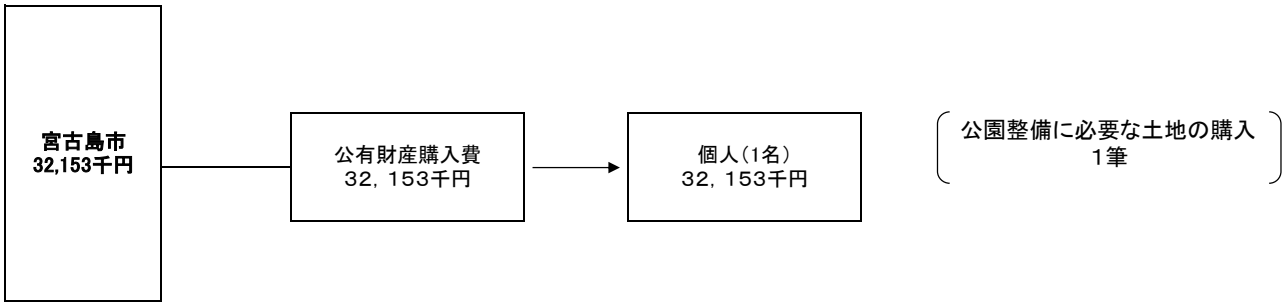
取組の検証	**推進上の留意点**（推進上の問題、外部環境の変化）	**改善余地の検証**（効率の更なる向上の視点）
	急増する観光客の受入体制整備が急務となっており、観光まちづくりに向けて、地域住民の多様なニーズに対応した身近な公園整備が必要となっている。	中心市街地活性化協議会、西里通り会及び地域住民と整備内容について2回意見交換会を行っている。

今後の取り組み方針

（公園利用方法の検討）
・供用開始後も市民からの意見も聞き、当初の利用計画（フリーマーケット等）以外での利用方法も検討して、市民が利用しやすい公園にする。
（施設の維持管理）
・近年の観光客数の増加により、ゴミ問題があることから、ゴミ箱の設置の有無や公園の管理委託。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
32,153	32,153	25,722	6,431	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	—	支出先の選定方法は妥当か。	○不動産算定により土地単価を決定しており、適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	持続可能な観光地域づくり推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－３－（２）－（ウ） 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	観光商工スポーツ部　観光商工課	事業実施（予定）年度	平成24年度～令和8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（１）
事業内容	宮古島市観光推進協議会による観光マネジメントを行い、官民連携して地域住民・環境に配慮した持続可能な観光地域づくりを推進する。				
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,780	6,729	6,910	10,707	18,190
	(b) 予算現額	6,705	6,713	6,910	10,707	18,190
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 75	▲ 16	0	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	6,705	6,713	6,910	10,707	18,190
B. 執行済額		5,699	5,663	6,830	10,651	18,136
うち交付金充当額		4,559	4,530	5,464	8,520	14,508
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		85.0%	84.4%	98.8%	99.5%	99.7%
予算の状況の説明		不用額は観光プロモーションに係る通信運搬費等の残額によるものである。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
①観光PRイベント等への参加	目　標	（ イベント参加 ）	（ イベント参加 ）	（ イベント参加 ）	（ イベント参加 ）
	実　績	イベント参加なし	イベント参加なし	イベント参加	イベント参加
②新規航空路線就航に向けたPR活動	目　標	（ PR活動実施 ）	（ PR活動実施 ）	（ PR活動実施 ）	（ PR活動実施 ）
	実　績	コロナの影響により実施なし	PR活動実施	PR活動実施	PR活動実施
③観光マネジメント業務体制構築の実施	目　標	（ 業務実施 ）	（ 業務実施 ）	（ 業務実施 ）	（ 業務実施 ）
	実　績	業務実施	業務実施	業務実施	業務実施

達成状況説明

【観光PRイベント等への参加及び新規航空路線就航に向けたPR活動】
今年度は、首都圏を中心に観光PRイベントに参加し、プロモーション活動を実施。海外からの新規就航路線である韓国へトップセールスと現地開催のイベントへも参加しPR活動も実施した。
【観光マネジメント業務】
第2次宮古島市観光振興基本計画で定めた観光振興に関する施策を官民一体となって推進し、宮古島市の活性化を図る事を目的とする宮古島市観光推進協議会（2回）及び観光実務担当者会議（2部会・各2～3回）を開催。また、伊良部牧山公園活用基本構想策定に向けては、住民との意見交換会を4回開催し、基本構想をまとめた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（ 年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（7年度）
・観光客の満足度75% （沖縄県：観光統計実態調査）	目　標	（ － ）	（ 75% ）	（ 75% ）	（ 75% ）	（ 75% ）
	実　績		67.5%	71.0%	R7.11月頃発表予定	
【参考指数】 ・入域観光客数	目　標	（ － ）	（ － ）	（ － ）	（ － ）	（ － ）
	実　績		736,990	938,162	1,096,288 （R6.4月～R7.2月）	

進捗状況説明

R4年度より持続可能な観光地づくりを目指すため、量から質への転換を図るとし、目標を入域観光客数から観光客の満足度へ変更。第2次宮古島市観光振興基本計画の目標値と同様とし、結果は沖縄県の観光統計実態調査を基にしている。
R6年度の満足度の結果はまだ未発表だが、コロナの影響により数値の落ち込んだR2年度以降、R3年度からは順調に推移してきており、R5年度はコロナ前のR1年度の満足度69.8%を超えることができた。引き続き、75%達成を目指していく。

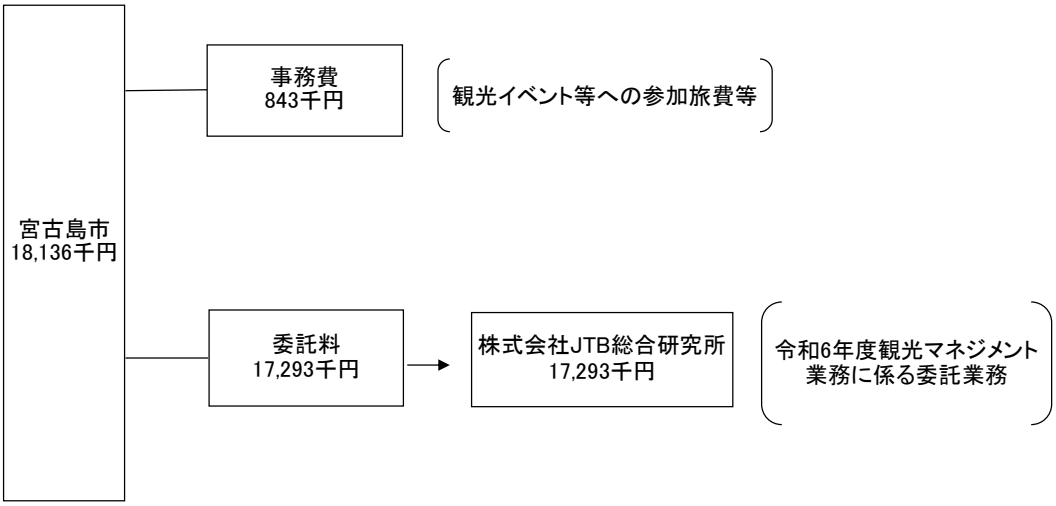
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○R5年度に比べ、R6年度は下地島－仁川線の就航やクルーズ船寄港の増加により外国人観光客も増加となった。文化の違いによるトラブルが生まれないよう、宮古島のルール（マナー等）についての啓発も強化していく必要がある。 ○観光客アンケートのWEB化と通年化を図り、前年度の約3倍ほどの回答を得ることができた。全体の満足度は高いものの、利便施設（トイレ、シャワー、駐車場、アクセス道路等）については大変満足の数値が低かった。 ○観光マネジメント業務においては、伊良部牧山公園活用基本構想を策定し、観光人材不足についても官民で議論し、アンケート調査やヒアリング調査を経て、現状や課題についての共有を図った。	○下地島－仁川線の就航が開始し、来年度は下地島－香港路線の復活も予定されている。外国人観光客向けに、宮古島のルール（サスティナブル・ツーリズムガイドライン）の多言語化や啓蒙活動を図る。 ○観光客アンケートの結果を受け、満足度を上げるための対策についての検討が必要。 ○観光マネジメント業務で共有した課題の対応について検討する必要がある。

今後の取り組み方針

○海外プロモーションでは、宮古島でのルール（マナーやサスティナブル・ツーリズムガイドライン等）の周知を含め、今年度完成するデジタルマップやPR動画なども活用し実施していく。国内でのプロモーションとしては、海外と同じく宮古島でのルールや、海だけじゃない宮古島、冬の宮古島の魅力なども押し出していく。
○観光客満足度向上のための、ハード・ソフト両面からの取り組みについて検討する。
○大学と連携した観光人材受入・誘致に向けて取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,136	18,136	14,508	3,628	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業実施にあたっては、公募型プロポーザル方式により、提案内容の優劣、実績・知識等の面で信頼性のある事業者を選定して契約しており、支出先としては妥当であると考える。 ○不用額は事業費の1%以下であり適正な規模であった。 ○費用・使途については、事業完了後に検査を行った結果適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-②	クルーズ船受入体制強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章-３-(2)-ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	観光商工スポーツ部 観光商工課	事業実施（予定）年度	平成29～令和8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	クルーズ船観光客の受入体制を強化し観光誘客を図るため、観光案内所の運営、歓送迎セレモニーの開催、情報の発信・収集等を実施する。				
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	30,000	11,944	0	28,000	30,248
	(b) 予算現額	8,623	0	0	24,100	30,248
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 21,377	▲ 11,944	0	▲ 3,900	0
	(d) 繰越額				0	
	A. 計 (b+d)	8,623	0	0	24,100	30,248
B. 執行済額		7,999	0	0	24,100	30,248
うち交付金充当額		6,399	0	0	19,280	24,198
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		92.8%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初予算額30,248千円に対し、執行額30,248千円と100%の執行率となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
①クルーズ船寄港時の受入業務	目　標	（ 寄港時に実施 ）	（ 寄港時に実施 ）	（ 寄港時に実施 ）	（ 寄港時に実施 ）
	実　績	寄港なし	寄港時に実施	寄港時に実施	寄港時に実施
②オーバーツーリズムにならない受入体制構築、受入コンテンツ開発	目　標	（ 受入体制強化 ）	（ 受入体制強化 ）	（ 受入体制強化 ）	（ 受入体制強化 ）
	実　績	寄港なし	コロナ禍のため実施なし	受入体制強化	受入体制強化

達成状況説明：①観光案内所の運営：クルーズ船の寄港寄港時に合わせて観光案内所の運営と、利便性向上のため備品設置や案内板の作成を行った。
②パンフレットなど情報発信：観光マップ、散策マップ、マナーうちわを、多言語版で配布。クルーズ船情報のメール配信サービスを実施。また、二次交通対策として、バス・タクシー待機所の検討や案内板の多言語化を行い、利用者の混乱を減らした。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（ 年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R10年度）
クルーズ船観光客観光消費単価13,400円	目　標	（　　）	（　　）	（ 13,400円 ）	（ 13,400円 ）	（ 17,000円 ）
	実　績		ー	20,440円	※10月頃に県より公表予定	－
【参考指標】 ・クルーズ船寄港回数	目　標	（　　）				
	実　績		1回	32回	52回	

進捗状況説明：・令和6年度の寄港回数は、前年度に比べて増加しており、令和7年度の寄港予定数も増加する見込みである。
・令和6年度クルーズ船観光客観光消費単価は現在調査中です。観光消費単価を増加と、地元経済活性化につながるよう令和6年7月に「ひらりんマーケット」と令和7年1月に「ミヤコジマスポーツチャンプルーチャレンジ」を開催した。

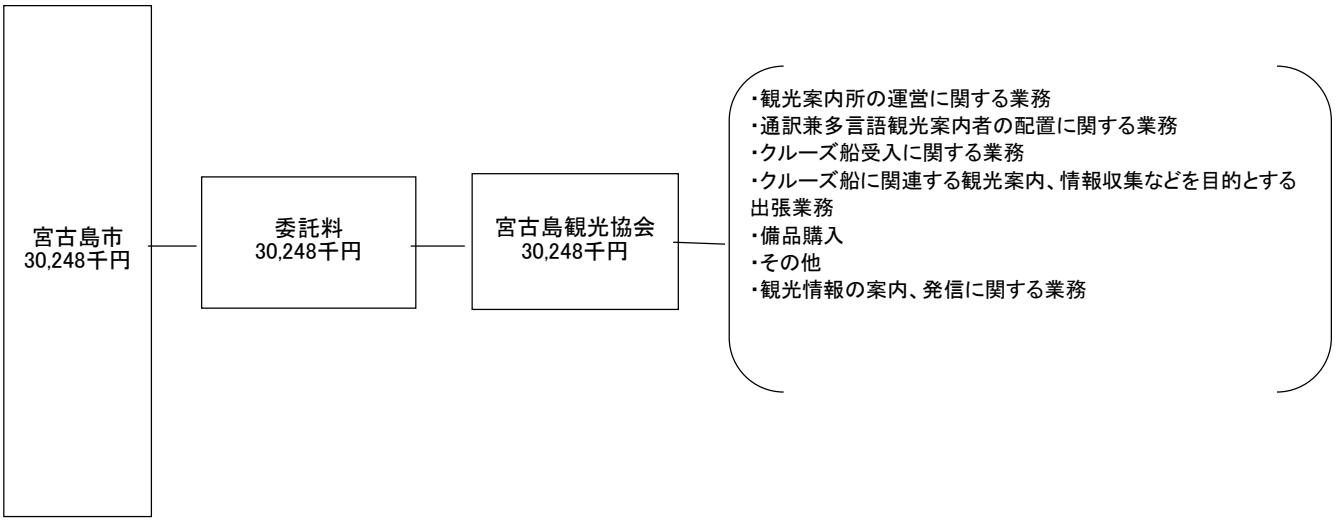
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・文化の違いによるマナーに対する考え方が異なる。 ・外国人はキャッシュレスでの決済手段を好むが、対応している店舗が限られている。 ・市内に両替機の台数が少なく、現金両替の取り扱いができる店舗もない。	・インバウンド受入対応強化として、利用者の利便性の向上も必要であるが、観光地をきれいに使ってもらえるよう、他言語表記によるマナー啓発、トイレ使用方法の張り紙等を取り組みたい。 ・キャッシュレス化について、市・民間事業者・金融機関等と連携を図りながら、導入に向けた周知を図る。 ・クルーズ船ターミナル内への両替機設置に向けた検討を図る。

今後の取り組み方針

・観光消費額の増加のため、観光関連事業者と連携するなど、観光案内所等において、観光客が訪問先で消費しやすいような対策の検討。
・観光案内所で動画を使った寄港地PRやマナー啓発など、観光客にわかりやすく情報を提供する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
30,248	30,248	24,198	6,050	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は地方自治法施行令第167条の2第1項第2号に基づき、随意契約を行っており、妥当であったと考えている。 ○国際クルーズ船の受入事業の強化と観光案内所運営業務ならびに利便性向上に対して、適正な予算規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-③	観光循環バス自走化実証事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－３－（２）－ア 「新しい生活様式/ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進
担当部課名	企画政策部　企画調整課	事業実施（予定）年度	令和4年～令和7年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（１）
事業内容	観光循環バスの将来的な自走化運行の実現へ向けて、採算性のあるルート・ダイヤの検討を行う。				
効果発現年度	□当年度　　■後年度（令和7年度）				
実施方法	□直接実施　　■委託　　□補助　　□負担　　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度		
予算の状況	(a) 当初予算額	109,880	100,540	108,909		
	(b) 予算現額	109,880	100,540	108,909		
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0		
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計 (b+d)	109,880	100,540	108,909		
B. 執行済額		102169	92399	49,379		
うち交付金充当額		81735	73919	39,503		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		93.0%	91.9%	45.3%		
予算の状況の説明	当初予算とプロポーザルによる契約金額との差額が発生したこと、関係機関との調整により運行ルートの見直しから距離短縮となったことで運行費の減額となったこと、また、運賃収入分を委託料から差し引いたことにより、▲59,530千円の減額となった。					

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	
採算性の改善による民間主体の自走化へ向けた試験運行	目　標	（　検討　）	（　運行　）	（　運行　）	
	実　績	検討	運行	運行	
関連事業者との意見交換の実施、交通協議会を活用しての将来的な運行体制の構築を行う	目　標	（　課題整理　）	（　課題整理　）	（　課題整理　）	
	実　績	課題整理	課題整理	課題整理	
達成状況説明	・観光客からの乗降ニーズが高いと思われる空港、宿泊施設、観光施設、商業施設を結ぶルートを設定し、観光地エリア、市街地エリアに分け利用促進が図られるルート・ダイヤの検討を行った。 ・利用者、関連事業者の課題把握については、庁内関係部署、交通事業者、観光協会、観光関連事業者等との「自走化へ向けた検討会」を計3回開催し、課題の整理を行った。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（令和7年度）
事業採算性の改善を図るため、過年度実証結果を基にしたルート・ダイヤの運行をした上で、本格運行を実施するルート・ダイヤの選定を行う。	目　標	（　）	（　選定　）	（　選定　）	（　選定　）	（　選定　）
	実　績		選定	選定	選定	
【R6成果目標】 1日あたりの運行バス本数：往復16本/日	目　標	（　）	（　14本/日　）	（　16本/日　）	（　16本/日　）	（　20本/日　）
	実　績		14.7本/日	17.1本/日	30本/日	
進捗状況説明	・採算性のあるルート・ダイヤの選定については、停留所及び時間帯毎の乗降調査、利用者へのアンケート調査を実施し、将来の自走化へ向けた候補ルート・ダイヤの選定を行った。 ・R6年度成果目標である1日あたりの運行バス本数：往復16本運行へ向け、観光地ルート：6本/日、市街地ルート：24本/日の1日当たり平均約30本の運行実績となった。成果目標は達成しているものの、採算性の観点から、ルートおよび停留所設置箇所の検討を行う必要がある。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（採算性のあるルート・ダイヤの選定） ・観光需要が戻り、公共交通への需要も高まった影響から、利用者は一定数あったものの、レンタカー事業者の増加等の影響で、R4に比べ利用者が減少した。一方で、運賃価格見直しにより、運行経費に対しての収入割合については増加。 （1日あたりの運行バス本数：往復16本／日） ・調査の結果から、空港～市街地を多頻度で運行する循環バスを求める声が多い。	（採算性のあるルート・ダイヤの選定） ・実証結果を基に、利用者の多いルート・ダイヤの設定を行うと共に、運賃体系の検討を図る。 （1日あたりの運行バス本数：往復16本／日） ・ニーズに合わせた運行本数の確保。

今後の取り組み方針

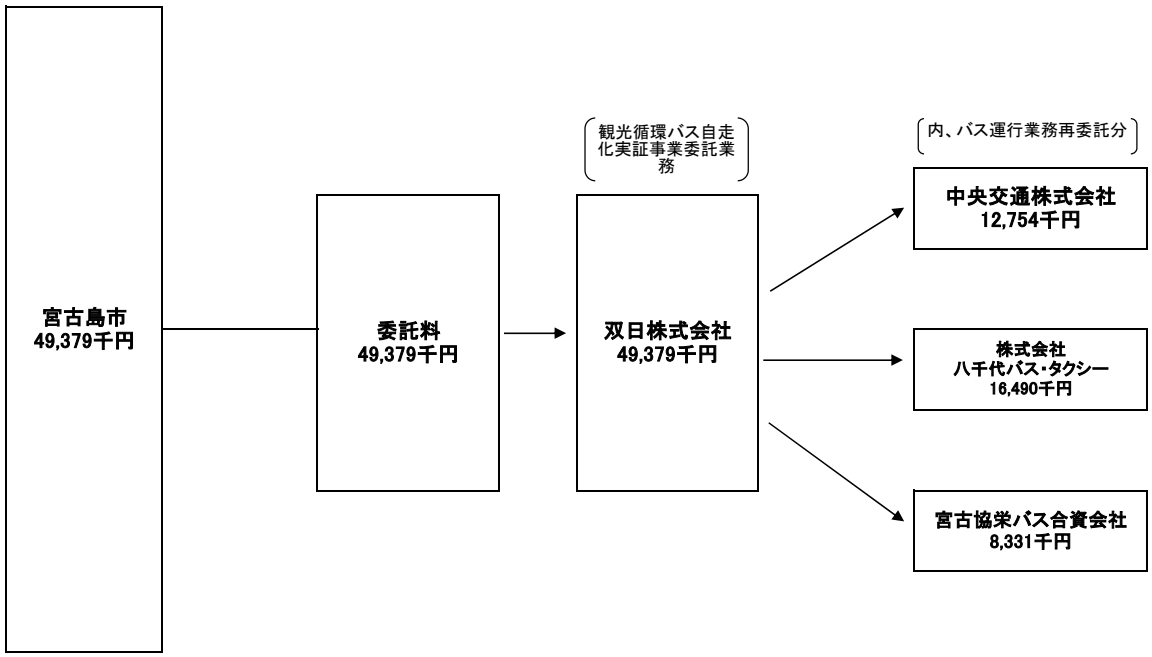
（採算性のあるルート・ダイヤの選定）
・利用者が多い宮古空港からの移動需要に合わせたルート・ダイヤ編成を行う。
・運賃体系を見直し、将来の自走化運行へ向けた体制構築を行う。

（1日あたりの運行バス本数：往復16本／日）
・停留所設置箇所の見直し、および、市街地循環ルートにおけるルート見直しを行う。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
49,379	49,379	39,503	9,876	0



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○契約相手方は公募型プロポーザルにより選定しており、適切であった。 ○残額が発生したものの、収入等を精査した上での差額のため適正な予算規模であった。 ○費目・使途については事業目的に則し、真に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-①	八重干瀬及び周辺地域自然環境保全活用促進事業		新・沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-（2）-ア 自然環境の保全・継承
担当部課名	生涯学習部生涯学習振興課	事業実施（予定）年度	令和4～9年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-（1）
事業内容	国指定文化財（名勝及び天然記念物）となっている八重干瀬の国定公園等への指定を目指すため、八重干瀬とその周辺地域について自然資源の現況を把握し、保全活用体制の整備を図る。				
効果発現年度	■当年度　　□後年度（令和　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他　（　　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度		
予算の状況	(a)当初予算額	75,537	39,270	40,095		
	(b)予算現額	67,518	39,270	40,095		
	(c)増減額(b-a)	▲ 8,019	0	0		
	(d)繰越額	0	0	0		
	A. 計(b+d)	67,518	39,270	40,095		
B. 執行済額		67,518	39,270	40,068		
うち交付金充当額		54,000	31,000	32,054		
次年度繰越額		0		0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	99.9%		
予算の状況の説明		入札残により不用額▲27千円。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度		
自然環境調査の実施	目　標	（　調査実施　）	（　調査実施　）		
	実　績	調査実施	調査実施		
成果の公表	目　標	（ 説明会実施 ）	（ 説明会実施 ）		
	実　績	説明会実施	説明会実施		
保全体制構築	目　標	（　体制構築　）	（　体制構築　）		
	実　績	体制構築	体制構築		
達成状況説明	これまでの結果に基づき継続・発展した内容で実施した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

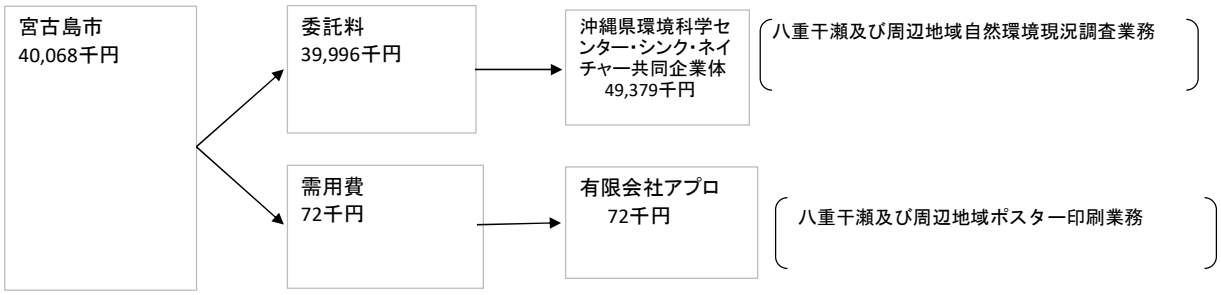
R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度		目標値（　年度）
①約3.9万haの対象地域のうち、約10m以浅の海域及び隣接沿岸域について、魚類・海藻類、池間湿地等を主とした生物群集特性を明らかにする。	目　標	（　　）	（ 対象域の生物群集特性 ）の把握	（ 対象域の生物群集特性 ）の把握		（　　）
	実　績		対象域の生物群集特性の把握	対象域の生物群集特性の把握		
②Ｒ５年度業務の成果について、市民等を対象とした報告会を２回開催する。	目　標	（　　）	（　２回　）	（　２回　）		（　　）
	実　績		２回	２回		
進捗状況説明	生物、地質特性の把握に努めた。既存の国定・国立公園に匹敵する多様性や保全優先度を有することが明らかになりつつある。 その成果を説明会にて公表した。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	これまで得られたデータによる生物多様度解析の精度を高める必要がある。	生物多様度解析モデルを再検討する。

今後の取り組み方針
これまで発見された群集のうち特筆すべきものの詳細調査を実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
40,068	40,068	32,054	8,014	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は地方自治法施行令第167条の2第1項第2号に基づき、随意契約を行っており、妥当であったと考えている。 ○不用額が発生したが、入札残によるもののため予算規模は適切であった。 ○費目・使途については支出等に関する書類により確認し、適当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-②	宮古馬利活用スタートアップ事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア
					沖縄文化の継承・発展・普及
担当部課名	生涯学習部 生涯学習振興課	事業実施（予定）年度	令和５年度～令和６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	宮古馬の利活用に向けて、宮古馬放牧場での駐車場の整備や、宮古馬利活用者の育成及び堆肥場の整備を行い、市民及び観光客の利用方法について計画を行う。				
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度			
予算の状況	(a) 当初予算額	10,823	6,994			
	(b) 予算現額	10,823	8,522			
	(c) 増減額 (b-a)	0	1,528			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	10,823	8,522			
B. 執行済額		9,948	8,522			
うち交付金充当額		7,958	6,817			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		91.9%	100.0%			
予算の状況の説明		・当初予定から会計年度任用職員の給与改定に伴い事業費814千円の増額となり、執行率100%となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度		
宮古馬利活用従事者の育成	目　標	（　2名　）	（　2名　）	（　　）	（　　）
	実　績	2名	2名		
達成状況説明	R5年度に引き続き、城辺字長間の宮古馬放牧場の一般見学案内を行った。案内を行う会計年度パート任用職員2名を雇用し、宮古馬の歴史や、宮古馬の現状、餌やり体験などを行い、利活用者の育成を行った。一般見学は、1日あたり4組の予約制を基本としたが、とびこみでの利用者も状況に応じて受け入れた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度		目標値（　年度）
宮古馬の利用者1000人	目　標	（　　）	（　1,000　）	（　1,000　）	（　　）	（　　）
	実　績		1,103	2,048		
進捗状況説明	R6年度は、2048人の入場者があり、その多くは観光客であった。アンケート結果では、充実した見学案内を提供できたといえる。また、R6年度は、空港などにパンフレットを置き、宮古馬放牧場を広く周知し、ゴールデンウイークや夏休みでの利用が高まった。また、こども園や、学校での利用もみられ、学習活動としての利用の幅も広がった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	宮古馬放牧場の見学形態は、1日4組の予約制であったが、予約のないとびこみの見学者も多かった。基本的には、とびこみの見学者も受け入れたが、ゴールデンウイークや夏休みは、来場者も多く、今後の利活用時においても同様の対応が必要となると考えられる。	来場者からのアンケートでは、宮古馬の乗馬や引き馬を行いたいとの多くの意見をえた。現在、調教をすすめており、今後、乗馬や引き馬ができるよう作業を進めていく。 また、宮古馬をもっと広く周知をして欲しいとの意見もえられ、今後もふれあい活動などを通して、宮古馬を市民及び観光客にも広く知ってもられるような普及活動を展開していきたい。

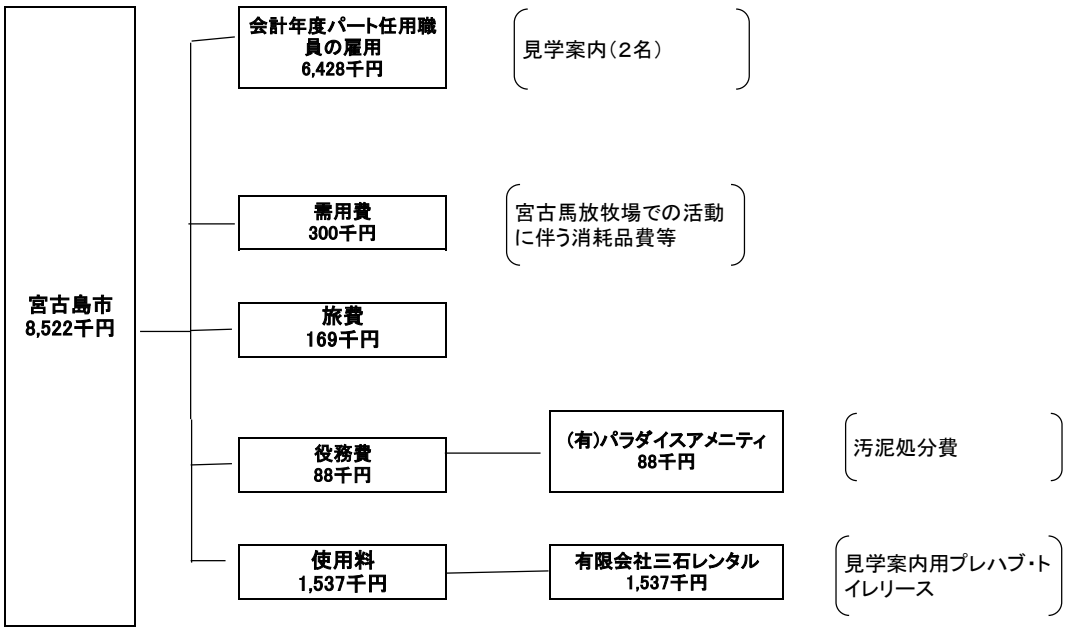
今後の取り組み方針

宮古馬スタートアップ事業は、R5～R6の2カ年計画の事業である。本事業で、宮古馬放牧場への来場者からえられたアンケート結果結果をもとにして、今後の宮古馬の利活用への活かしていく。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,522	8,522	6,817	1,705	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各支出先については、市の規則等に照らして適正に選定した。 ○予算規模については、大きな増減もなく適正であった。 ○費目、使途については、事業目的に照らし必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-③	宮古島市歴史文化活用推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア
					沖縄文化の継承・発展・普及
担当部課名	生涯学習部 生涯学習振興課	事業実施（予定）年度	令和５年度～令和９年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	宮古島市には苧麻積み文化や埋蔵文化財などの分野において、宮古島市独自の文化の形成が認められる。本事業では、これらの独自の文化の魅力発信を行い、市民及び観光客へその歴史文化の周知と活用の促進を図る。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度			
予算の状況	(a) 当初予算額	16,679	14,911			
	(b) 予算現額	16,679	16,122			
	(c) 増減額 (b-a)	0	1,211			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	16,679	15,260			
B. 執行済額		15,729	16,122			
うち交付金充当額		12,583	12,897			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		94.3%	105.6%			
予算の状況の説明		歴史文化資料館及び綾道の製作に携わる会計年度パート任用職員を計3名を雇用した。また、資料館の利用の利便性を高めるため、資料館敷地内での駐車場の整備や、出入り口部分の門扉の撤去などを行った。その他、苧麻績み展示室の整備として、宮古上布の製作に係る苧麻糸の購入を行った。 事業費の増額分（1,211千円）については、任用職員の給与改定によるものであり、執行率100%となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R5年度	達成状況 R6年度		
歴史文化資料館の苧麻績み展示室の整備	目　標	（　1展示室　）	（　展示資料作成 苧麻糸購入　）		
	実　績	1展示室	展示資料作成 苧麻糸購入		
歴史文化資料館の苧麻畑屋外展示の整備	目　標	（　苧麻畑の整備　）	（　R5完了　）		
	実　績	苧麻畑の整備	R5完了		
歴史文化資料館の利用促進及び文化講座の開催	目　標	（　10回の文化講座　）	（　8回の文化講座　）		
	実　績	10回の文化講座	8回の文化講座		
『綾道-自然(植物)-』の制作・発刊	目　標	（　植物編の発刊　）	（　動物編の発行　）		
	実　績	植物編の発刊	動物編の発行		
達成状況説明		・資料館の入場者数は、目標数を超え、特に観光客の利用は増加した。 ・草木染め体験や、宮古上布工房巡りなどの全8回の文化講座を実施し、宮古島市の歴史と文化への理解を深めた。 ・『綾道-自然・動物編-』を発行した。 ・苧麻績み展示室の整備として、宮古上布製作に係る苧麻糸の購入を行った。 ・資料館内で駐車場の整備を行った。			

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度		目標値（　年度）
宮古島市歴史文化資料館の入館者数	目　標	（　　）	（　2,000人　）	（　5000人　）	（　　）	（　　）
	実　績		1,973人	3,124人		
進捗状況説明		令和6年度は、埋蔵文化財の企画展や、宮古上布に関する文化講座を実施し、3,000人以上の入館者があり、前年度に比して1,000人以上の入館者が増大したが、目標とする5,000人には届かなかった。				

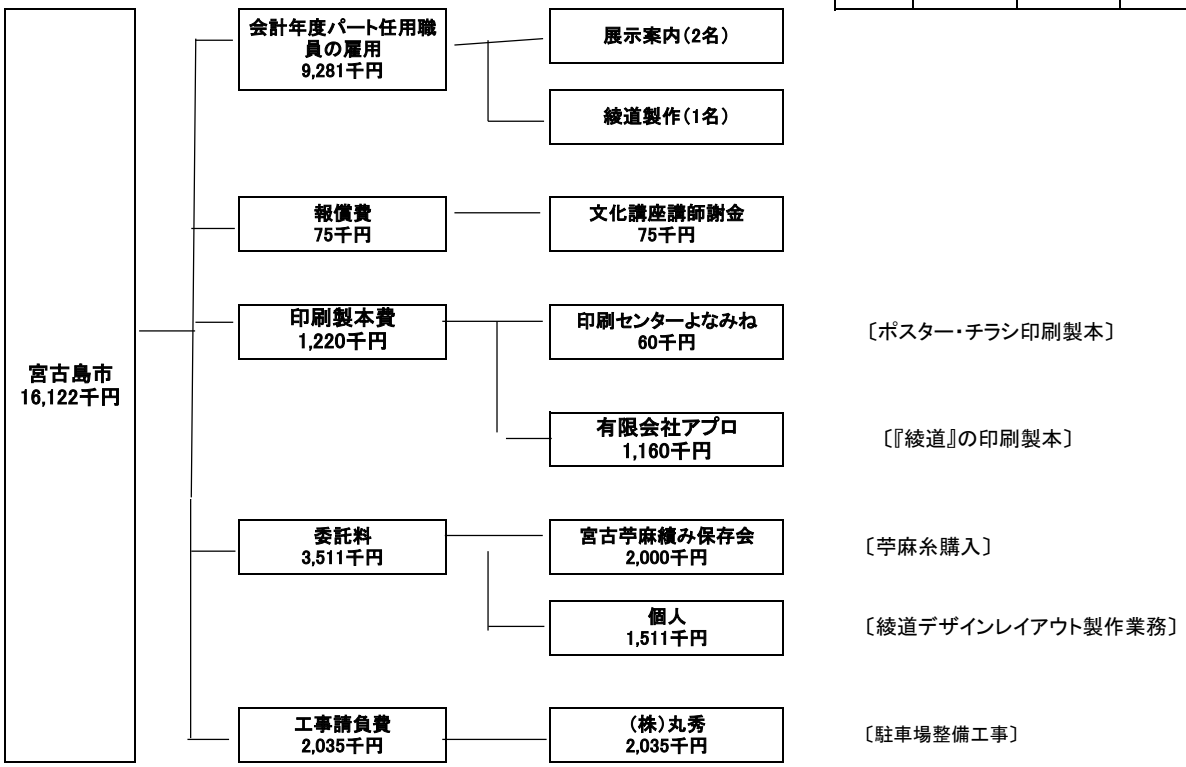
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光客の利用や、資料館での年4回の企画展の開催、全8回の文化講座を実施し、資料館への利用の頻度を高めたことにより、前年より1,000人以上もの利用者を増やすことができた。しかし、環境客への周知も不十分な部分もあり、今後は、その周知に力を入れていきたい。	・パンフレットを製作し、空港などのおくことで、歴史文化資料館の周知を図る。また、市民の利用についても、LINEや、地元紙などを活用し、利用の拡大を図る。

今後の取り組み方針

・歴史文化資料館の活動を周知するため、より積極的な広報活動を行う。具体的には、市のラインや、マスコミへの取材依頼などをより積極的に進める。
・市民が求める文化講座や、文化財巡検などを実施し、満足度の充実を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
16,122	16,122	12,897	3,225	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各支出先については、市の規則等に照らして適正に選定した。 ○予算規模については、大きな増減もなく適正であった。 ○費目、使途については、事業目的に照らし必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-④	宮古島市総合博物館デジタル・ミュージアム推進整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-（4）ーア 沖縄文化の継承・発展・普及
担当部課名	生涯学習部　総合博物館	事業実施（予定）年度	令和５～令和８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-（3）
事業内容	宮古島市総合博物館におけるデジタルアーカイブならびにインターネット上でのコンテンツ公開のためのデジタル・ミュージアムを持続的に運用していくための基盤を整備し、デジタル・ミュージアムを構築する。				
効果発現年度	□当年度　　■後年度（令和9年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	R5年度	R6年度			
予算の状況 (a) 当初予算額	1,777	2,230			
予算の状況 (b) 予算現額	1,824	2,065			
予算の状況 (c) 増減額 (b-a)	47	▲ 165			
予算の状況 (d) 繰越額					
予算の状況 A. 計 (b+d)	1,824	2,065			
B. 執行済額	1,821	2,065			
うち交付金充当額	1,457	1,651			
次年度繰越額					
執行率（%）(B/A)	99.8%	100.0%			
予算の状況の説明	当初ではシステム使用料を４月分より計上していたが、システム利用開始が９月からとなったため、▲165千円の減額となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R6年度			
収蔵品管理・公開システムの導入ならびに業務での運用開始	目　標	（　導入・業務運用開始　）			
	実　績	導入・業務運用開始			
収蔵品データ及び公開用コンテンツの作成完了（令和6年度予定分）	目　標	（　作成完了　）			
	実　績	作成完了			
具体的な運用方法の決定	目　標	（　運用方針決定　）			
	実　績	暫定方針の決定			

達成状況説明

・館で3D化する資料を5点選出し、3Dスキャンと3Dモデルデータを作成した。
・博物館でデジタル管理されていた資料の情報や画像14,000件余を新たに導入したシステムに移行した。
・運用方針は、R6年度は暫定方針の決定とし、R7年度事業をもって決定する。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R6年度			
①導入システムへのデータ移行完了	目　標	（　）	（　完了　）			
	実　績		完了			
②業務におけるシステム活用（120件）	目　標	（　）	（　120件　）			
	実　績		57件			
③デジタル・ミュージアム運用方法の決定	目　標	（　）	（暫定方針の決定）			
	実　績		暫定方針の決定			

進捗状況説明

①これまでExcelデータで管理していたデータを、導入したシステムへ移行した。移行作業は委託したが、移行時のデータ整理については受託者と複数回協議を行った。
②業務におけるシステム活用にかかるデータ登録件数は、令和6年度に博物館へ収蔵された資料点数が57件であったため、成果目標より数字が下回った。
③R5年度事業の報告書を元に、館内で協議をすすめ、方針や内容に関する暫定方針をまとめた。

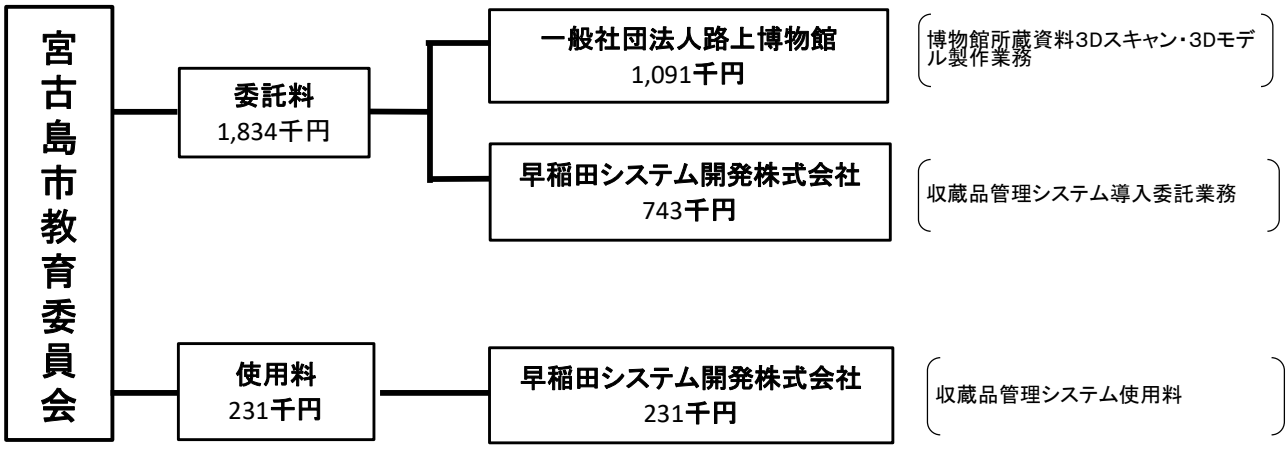
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・デジタル・ミュージアムの構築、運用にあたり、総合博物館以外の教育委員会部署や外部委員などからなる検討委員会を通して、公開サイトの構築や公開用備品の検討を行う必要がある。 ・業務におけるシステム活用は、新たに博物館に収蔵された資料の登録件数として目標件数を設定したが、例年よりも新規資料が少なく、目標に至らなかった。年度によって変動する指標を目標数値として設定した点が、目標の未達につながったと考えられる。	・導入したシステム活用を、業務フローの中に取り込むことで、業務の効率化を図る。 ・公開ページの利用状況の追跡等から、ニーズのくみ取りを行う必要がある。 ・変動しやすい指標を用いず、変動しない設定基準を設ける。

今後の取り組み方針

・総合博物館だけではなく、教育委員会の学校教育担当部署や生涯学習担当部署、外部委員から構成される検討委員会を設置し、運用方針や公開するコンテンツや公開場所、公開機材について、複数の視点から検討する。
・全ての検討事項において、継続性をいかに担保するかを重視する。
・業務フローの中にシステム利用や機器利用を盛り込むなど、日常業務の中にデジタル・ミュージアムに関する業務を整理し、継続運用のための基盤を作成する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,065	2,065	1,651	414	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○システムは事業の継続性を担保する観点から他社より著しく安価かつ実績があるものを選択した。システム導入に関する委託業務は、システム導入元による実施が必須なため、システム提供元へ委託した。 ○資料の3D化については、館職員への研修も含めた契約であり、研修も実施可能な事業者を選定した。 ○いずれの事業も実施においては必須要件である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	地産地消による地域内経済循環システム構築事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章－３－（1）－（イ） 地域・産業間連携による「稼ぐ力」と域内自給率の向上
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	令和4年度～令和8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)
事業内容	地産地消による地域内経済循環促進と生産者及び関連事業者の所得向上を図るため、学校給食等における地産食材活用の推進、地産地消ブランドづくり、地域内経済循環分析などに関するシステムづくりを推進する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R5年度	R6年度		
予算の状況	(a) 当初予算額	20,400	37,533	49,447		
	(b) 予算現額	20,400	34,911	50,581		
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 2,622	1,134		
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計 (b+d)	20,400	34,911	50,581		
B. 執行済額		19,551	34,911	49,294		
うち交付金充当額		15,640	27,928	39,435		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		95.8%	100.0%	97.5%		
予算の状況の説明	事業計画のとおり、事業を執行した。 不用額▲1,287千円については、主に委託契約における精算実績の減額によるものである。					

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	
学校給食＋α ・地産地消コーディネータ実証	目　標	（　実証実施　）	実証実施	実証実施	
	実　績	実証実施	実証実施	実証実施	
地産地消ムーブメントづくり ・情報発信ツール開発、支援策検討、イベント試行	目　標	（　制度検討　）	ルールづくりと運営体制づくり	情報発信ツール開発、支援策検討、イベント試行	
	実　績	制度検討	コア・コミュニティ立ち上げおよびブランドマニュアル策定	SNS/Web開設、発信コンテンツ制作、支援制度開始、イベント実施	
地域経済循環分析 ・分析結果活用の仕組みづくり（市民・事業者・市）	目　標	（ システムづくり ）	ワークショップや効果検証	分析結果活用の仕組みづくり	
	実　績	産業連関表作成及び産業構造分析	ワークショップ開催 産業連関分析職員研修	調査実施、円卓会議開催	

達成状況説明

・じゃがいも・玉ねぎ・ニンジンに加え、キャベツ・大根を対象として、学校給食へつなぐ取り組みを実施。前年の事業報告会を踏まえ、参画希望の生産者を募るとともに、給食以外への展開を見据えて青果卸事業者との連携を強化した。配送の課題が顕在化したため、運送事業者との連携・試行を行った。
・市民によるコア・コミュニティ会議を継続し、情報発信のためのツールやコンテンツを検討。イベントを実施するとともに、市民活動を支援する制度を立ち上げ、試験運用を開始した。
・過年度に作成した産業連関表よりもさらに詳細に地産地消による経済循環効果を把握するため、LM3調査を実施（分析はR7）。今後、事業者を巻き込んでいくため、「みやこ経済循環円卓会議」を開催した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（R2年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R8年度）
学校給食における地産食材利用率の向上（20%以上）	目　標	（ 11.10% ）	（　　）	（ 20%以上 ）	（ 20%以上 ）	（　　）
	実　績		17.7	23.5	27.0	

進捗状況説明

・地産食材利用率については、本市の学校給食共同調理場（5調理場）のデータを集計しており、令和2年度の11.1%から令和6年度27.0%へと増加しており、目標値を上回った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（コーディネート機能構築） ■生産者と卸事業者との連携が少しずつできてきており、学校給食以外を含む地産地消の広がりが期待できる。保管や配送（どう集め、どう届けるか）などに課題があるため、将来的に持続可能な流通の仕組みづくりを検討する必要がある。 （地産地消ブランド化） ■市民活動の支援制度ができたことから、さらに参画する市民（しまさんフレンズ）を増やしていく必要がある。 （経済循環推進） ■新たなLM3調査にあたり、調査チームを編成し、必要なデータを収集できた。R7の統合分析を踏まえて地産地消による経済循環効果を可視化できるため、EBPMの仕組みづくりに向けた取り組みを推進する必要がある。	（コーディネート機能構築） ■コーディネーターによる取り組みを継続しつつ、市内全体で地産食材利用率を向上していくため、新たな流通システムの検討を行う。 （地産地消ブランド化） ■支援する市民活動の事例を増やしていくため、広報や活動主体となる市民との接点拡大を図る。 （経済循環推進） ■EBPMの仕組みづくりに向けて、みやこ経済循環円卓会議の位置づけや運営方法の確立を図る。

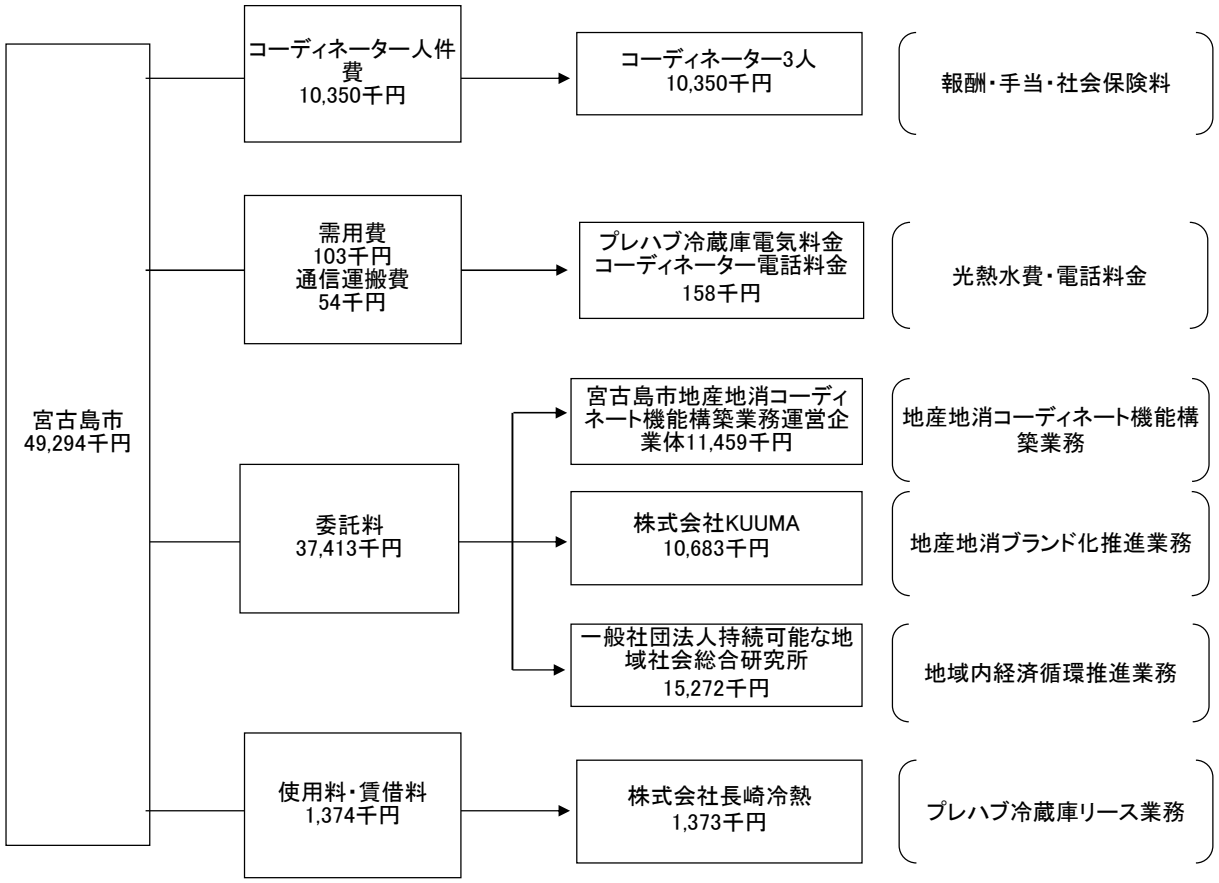
今後の取り組み方針

（コーディネート機能構築）
地産地消に関係する事業者を巻き込みながら、将来的な流通システム（物流・商流のあり方やコーディネーターの位置づけ・立場など）の検討を行う。
（地産地消ブランド化）
これまでのコア・コミュニティをよりオープンに市民が集う場として設定し、活動の主体となる市民との接点を広げつつ、巻き込みを図るために、これまでに制作したツールやコンテンツを活用して、支援制度や取り組み事例などを広く周知していく。
（経済循環推進）
R6に収集したデータの分析を進めつつ、みやこ経済循環円卓会議の設計、運営を通して、EBPMの仕組みづくりに向けた取り組みを実施する。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
49,294	49,294	39,435	9,859	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の2.7%で、適正な規模であった。 ○特定の受益者はいないため、受益者負担は生じていない。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-②	”宮古島産の牛”生産推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(10)-ア 離島ごとの環境・特性を生かした農林水産業の振興
担当部課名	農林水産部　畜産課	事業実施（予定）年度	令和4～13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)
事業内容	肉用牛の生産拡大を図るため、素牛増産および売上増加に向けた支援を行う。				
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	R4年度	R5年度	R6年度		
予算の状況 (a) 当初予算額	32,000	32,000	32,000		
予算の状況 (b) 予算現額	11,400	23,679	32,000		
予算の状況 (c) 増減額 (b-a)	▲ 20,600	▲ 8,321	0		
予算の状況 (d) 繰越額	0	0			
予算の状況 A. 計 (b+d)	11,400	23,679	32,000		
B. 執行済額	11,336	22,919	8,751		
うち交付金充当額	9,068	18,335	7,000		
次年度繰越額	0	0	0		
執行率（%）(B/A)	99.4%	96.8%	27.3%		
予算の状況の説明	全国的な子牛セリ価格の低迷のため補助対象経費のうち牛購入価格が想定より低額となったこと、また飼料価格の高騰等の影響により母牛更新計画を見直し、申請辞退した農家がいたため目標頭数の80頭に達しなかったことにより、▲23,249千円の減額補正を行った。R6年度導入頭数は30頭。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
優良母牛更新　80頭／年	目　標	（　　）	（　80頭　）	（　80頭　）	（　80頭　）
	実　績		32頭	72頭	30頭
達成状況説明	85頭分の実施計画の提出を受けたが、全国的な子牛セリ価格の低迷や飼料価格の高騰等の影響により母牛更新を見送り申請辞退する農家がいたことから、目標数値に達しなかった。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（R4年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R7年度）
素牛の年間出荷頭数　3,806頭	目　標	（ 4,176頭 ）	（ 4,176頭 ）	（ 3,972頭 ）	（ 3,806頭 ）	（ 3,780頭 ）
	実　績		4,037頭	3,838頭	3,716頭	
素牛の平均販売価格　482千円	目　標	（ 700千円 ）	（ 700千円 ）	（ 550千円 ）	（ 482千円 ）	（ 442千円 ）
	実　績		597千円	484千円	473千円	
進捗状況説明	・素牛の年間出荷頭数について、セリ価格の低迷、高齢化による農家戸数の自然減、飼料高騰等の影響による生産頭数の減少傾向に伴い、出荷頭数も減少が続いている。 ・素牛の平均販売価格について、飼料高騰等の社会情勢の影響による全国的な子牛価格の低迷があり、目標に届かなかった。					

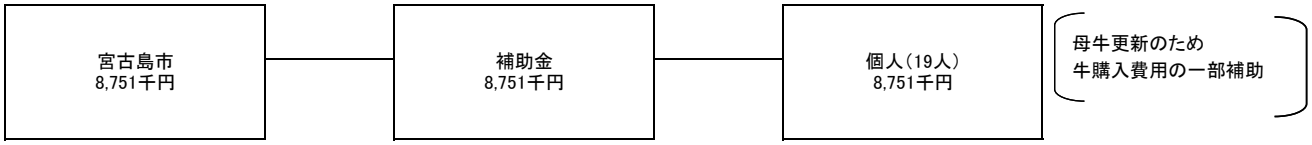
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（素牛の年間出荷頭数） ・販売価格の低迷、生産頭数の減少により目標頭数に達しなかった。販売価格の安定のためにも出荷頭数を増やす必要があるが、減少傾向が続いている。 （素牛の平均販売価格） ・飼料高騰に伴う生産費の大きな負担が経営を圧迫し、購買意欲の低下と販売額の低迷に繋がっている。	（素牛の年間出荷頭数） ・当事業を推進し適期の母牛更新を支援することで、安定的な素牛の生産に繋げていく。 （素牛の平均販売価格） ・販売額については市場原理による外的要因の影響が大きいが、良質な素牛の出荷や当事業の実施による競合効果で販売額の底上げに繋げていく。

今後の取り組み方針

・当事業を継続して実施し、適期の母牛更新を支援することにより良質な素牛の安定生産に繋げ、出荷頭数の減少に歯止めをかけるとともに、販売額の増額に繋がるよう取り組んでいく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
17,714	8,751	7,000	1,751	8,963



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○導入の実施計画を提出してもらい、要件を確認し補助を決定した。 ○飼料高騰等の影響により母牛更新を控える農家がいたため目標頭数に達せず、また全国的な子牛セリ価格の下落のため交付額が想定より低額となった。 ○費目、使途については交付決定の段階で確認しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－①	救命処置普及強化支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-（3）-ウ
担当部課名	消防本部　警防課	事業実施（予定）年度	平成28年～令和13年度		離島・へき地医療、救急医療提供体制の確保・充実
				沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9－（2）
事業内容	観光客や市民等に重篤な傷病者が発生した際の応急体制を確保するため、市民の救命能力の向上と普及啓発に取り組む。				
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,755	18,725	8,918	9,104	11,240
	(b) 予算現額	7,992	16,777	8,985	9,398	13,294
	(c) 増減額 (b-a)	237	▲ 1,948	67	294	2,054
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	7,992	16,777	8,985	9,398	13,294
B. 執行済額		7, 990	16, 695	8,985	9,377	13,294
うち交付金充当額		6, 391	13, 355	7187	7,500	10,635
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		100.0%	99.5%	100.0%	99.8%	100.0%
予算の状況の説明		給与改定に伴う報酬等により2,054千円の増額となった為、事業間流用で対応したが、執行率100%となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
・応急手当普及員：3名配置	目　標	（　3名　）	（　3名　）	（　3名　）	（　3名　）
	実　績	3名	3名	3名	3名
・定例救命講習会の実施：23回	目　標	定例21回（Ⅰ/15回、Ⅲ/3回、上級/3回）	定例21回（Ⅰ/15回、Ⅲ/3回、上級/3回）	定例23回（Ⅰ/16回、Ⅲ/3回、上級/4回）	定例23回（Ⅰ/16回、Ⅲ/3回、上級/4回）
	実　績	定例10回（Ⅰ/8回、Ⅲ/0回、上級/2回）	定例11回（Ⅰ/8回、Ⅲ/1回、上級/2回）	定例17回（Ⅰ/10回、Ⅲ/3回、上級/4回）	定例15回（Ⅰ/7回、Ⅲ/3、上級/5回）
・出前救命講習会の実施：随時受付開催	目　標	（　開催　）	（　開催　）	（　開催　）	（　開催　）
	実　績	開催	開催	開催	開催
・救命講習に関する普及啓発活動	目　標	（各種イベント等、地元ケーブルテレビ・ラジオで広報活動）	（各種イベント等、地元ケーブルテレビ・ラジオで広報活動）	（各種イベント等、地元ケーブルテレビ・ラジオで広報活動）	（各種イベント等、地元ケーブルテレビ・ラジオで広報活動）
	実　績	宮古テレビ	防災フェア、防火委員会、宮古テレビ、広報誌、YouTube	防災フェア、宮古テレビ、広報誌、YouTube、市公式SNS	防災フェア、宮古テレビ、広報誌、YouTube、市公式SNS
・コンビニエンスストア配置の使い捨てパッド購入 ・AEDトレーニングユニット　9台購入 ・訓練用人形バッグ購入	目　標	（　）	（　）	（訓練用人形の追加）	（訓練用AED追加）
	実　績			購入	購入
達成状況説明		・専属の応急手当普及員を3名配置し、市民を対象に定例救命講習会、出前救命講習会を実施した。 ・定例救命講習会の23回を設定していたが、開催要件の定員5名に満たなかった為、開催が出来ずに未達成となった。 ・講習会を充実させるため、AEDトレーニングユニット9台を購入した。			

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（7年度）
救命講習会受講者数	目　標	（　）	（　1,200名　）	1,300	1,500	（　1,600　）
	実　績		1,399名	1,933	1,973	
救命講習受講者へのアンケートで適切な応急手当が理解できたか（80%）を含め本事業のあり方を検証する。	目　標	（　）	（　80%　）	80%	80%	（　80%　）
	実　績		86.0%	89.0%	88.0%	
進捗状況説明		・教育機関の受講数が増加、また、大型ホテルの関係者の受講数が伸び年度の目標値を達成することができた。 ・受講者の理解度について、講習会後、アンケートを実施した結果、反応・呼吸の確認、胸骨圧迫、AEDの使用については、90%以上となった。また、全項目の平均でも88%となり、目標を達成できた。				

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（救命講習会受講者数） ・教育機関が年1回の受講するようになり、教員の受講者が増加。また、大型ホテルの建築数が増え、観光客数が増加してきたため、ホテルの関係者の受講が増えたこともあり、目標を達成することが出来た。 （受講者の習熟度検証） ・救命講習会を終え理解度のアンケート調査を実施したところ、救命講習会の内容について自信がないが1％であるが、それ以外は平均して88%理解することができた。	（救命講習会受講者数） ・救命講習会受講者数は増加傾向にあるため、効率的な開催方法と思われる。今後も、救命講習受講者の希望日時（土・日及び17時以降等）に合わせこれまでどおり実施する。 （受講者の習熟度検証） ・心臓マッサージ及びAED使用の重要性を理解してもらう為、現場想定シミュレーションなどを実施し、理解度の向上を図る。 ・ガイドライン2020対応のトレーニングキットなどを活用し、講習会の質を向上させる。

今後の取り組み方針

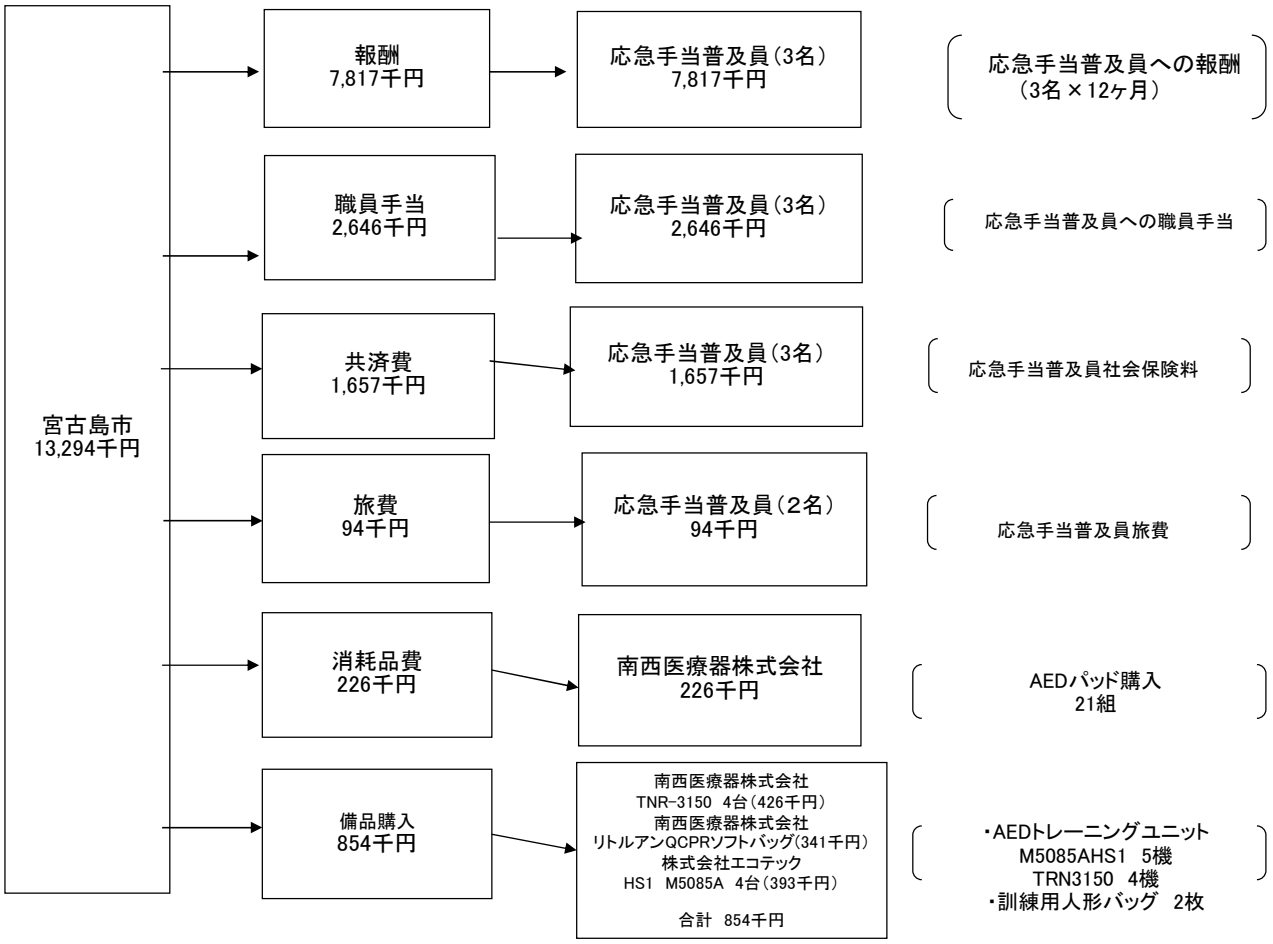
（定例救命講習会）
・定例救命講習会の過去の実績を考慮して、開催日や開催項目（普通救命講習Ⅰ・Ⅲ・上級）の増減などを検討し、受講者が参加しやすい環境を目指す。

（受講者の習熟度検証）
・感染対策を踏まえた上で気道確保や人工呼吸の理解度の向上や胸骨圧迫やAEDの習熟度を伸ばすため、ガイドライン2020対応のトレーニングキットを活用し、より実践的な講習会を目指す。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,294	13,294	10,635	2,659	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は市契約規則第20条第1項第2号を適用し、随意契約を行っており適切に執行したと考える。 ○事業の適切な運営に伴い、予算執行も適切に行われた。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-③	下地島空港周辺観光地における 津波避難困難地域解消事業計画策定事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－2－（4）－（イ） 大規模災害等に備えた強くしなやかな県土づくりの推進
担当部課名	総務部　防災危機管理課	事業実施（予定）年度	令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（3）
事業内容	下地島空港周辺観光地における津波避難困難地域の解消に向けた取組を行う。				
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	R6年度				
予算の状況 (a) 当初予算額	5,500				
予算の状況 (b) 予算現額	5,500				
予算の状況 (c) 増減額 (b-a)	0				
予算の状況 (d) 繰越額	0				
予算の状況 A. 計 (b+d)	5,500				
B. 執行済額	5,280				
うち交付金充当額	4,224				
次年度繰越額	0				
執行率（%）(B/A)	96.0%				
予算の状況の説明	不用額の220千円については委託の入札残によるものである。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R6年度			
下地島空港周辺観光地における津波避難困難地域解消手法検討調査業務の実施	目　標	（　実施　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	実施			
達成状況説明	当初の予定どおり調査業務を実施し、目標を達成した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R6年度			目標値（　年度）
津波避難困難区域解消基本計画策定完了	目　標	（　　）	（　完了　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		完了			
進捗状況説明	当初の予定どおり基本計画を策定し、目標を達成した。					

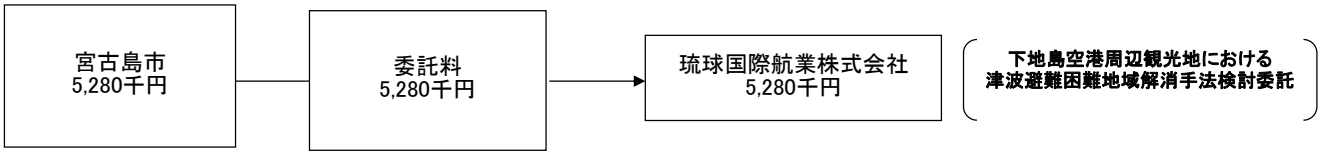
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	津波避難困難地域の解消および災害時に考えられるリスクとして、災害情報の伝達不備、地下空洞（陥没・落下）、自然環境への影響、避難にかかる事業費の増加、避難路・ライフラインの寸断、外国人観光客の対応が考えられる。	社会情勢の変化や近年の災害の特徴等を踏まえ、必要に応じて避難計画および手法の見直しを行う。

今後の取り組み方針

下地島を訪れる観光客、また観光業者や耕作者などの地元関係者も含め、津波発生時に出来るだけ多くの人の命が助かるよう、避難困難地域の解消に向けた取組みを進めていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,280	5,280	4,224	1,056	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-①	選手派遣支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－5－(2)－ア 確かな学力を身に付ける学校教育の充実
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成24～令13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	島外との競争や交流の機会を増やし、児童生徒に広い視野を持たせるため、スポーツや文化活動において、県大会や全国大会へ派遣される際の旅費の一部を補助する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況 (a) 当初予算額	17,471	21,991	31,990	53,318	58,295
予算の状況 (b) 予算現額	7,146	14,991	31,990	48,806	47,421
予算の状況 (c) 増減額 (b-a)	▲ 10,325	▲ 7,000	0	▲ 4,512	▲ 10,874
予算の状況 (d) 繰越額	0	0	0	0	
予算の状況 A. 計 (b+d)	7,146	14,991	31,990	48,806	47,421
B. 執行済額	2881	11,507	23,666	39,450	44,471
うち交付金充当額	2304.8	9,205	18,933	31,560	35,576
次年度繰越額	0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)	40.3%	76.8%	74.0%	80.8%	93.8%

予算の状況の説明：県立学校の児童生徒を補助対象に加えた2年目であり、昨年度下半期の実績では1年間の予算の見通しを持つことが難しく、▲10,874千円の事業費減額となった。不用額▲2,950千円については、補助申請件数が想定を下回ったことが要因であり、執行率は93.8%となった。

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
児童生徒の大会派遣（県内・県外）	目　標	（児童生徒の大会派遣）	（児童生徒の大会派遣）	（児童生徒の大会派遣）	（児童生徒の大会派遣）
	実　績	児童生徒の大会派遣	児童生徒の大会派遣	児童生徒の大会派遣	児童生徒の大会派遣

達成状況説明：スポーツや文化面で島外へ派遣される延べ人の児童生徒に対し旅費を補助し、保護者の経済的負担軽減を図った。

〇主な派遣先
・小学生：県内「第150回沖縄県学童軟式野球大会」20人、県外「第39回全九州小学生バレーボール優勝大会inSAGA」10人
・中学生：県内「第70回全沖縄学校音楽発表会」25人、県外「U14山鹿温泉祭Girls Cap2024」14名
・県立学校：県内「第64回沖縄県吹奏楽コンクール　第69回九州吹奏楽コンクール沖縄支部予選」45人、県外「第8回全九州高等学校総合文化祭福岡大会小倉百人一首かるた部門」8人

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
児童生徒が広い視野を持てたか（80%以上）を含め、回収した保護者に対するアンケートにより、本事業のあり方を検証する	目　標	（　　）	（アンケートの実施・検証）	（アンケートの実施・検証）	（アンケートの実施・検証）	（　　）
	実　績		アンケートの実施・検証	アンケートの実施・検証	アンケートの実施・検証	

進捗状況説明：・保護者アンケート「お子さんが広い視野を持てたと思いますか」という問いに「そう思う」「ややそう思う」と答えたのは99.6%であり、目標達成できた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・制度の改正により、補助対象を拡大したことが浸透したことや個人申請も受付できることが浸透し、派遣人数・申請件数共に著しく増加した。 ・アンケート調査の結果、成果目標を達成できた要因は、島内では対戦相手が限られているため島外派遣により他チームとの差を知ることができたこと、新たな目標を持つことができたこと等となっている。	・補助対象の拡大により、派遣人数・申請件数は大きく増加したが、今後は補助枠の拡大や補助額の増額を図り、経済的負担のさらなる軽減を目指す。 ・アンケートの回収率がとても悪く、Web回答なども取り入れ回答率を上げる。

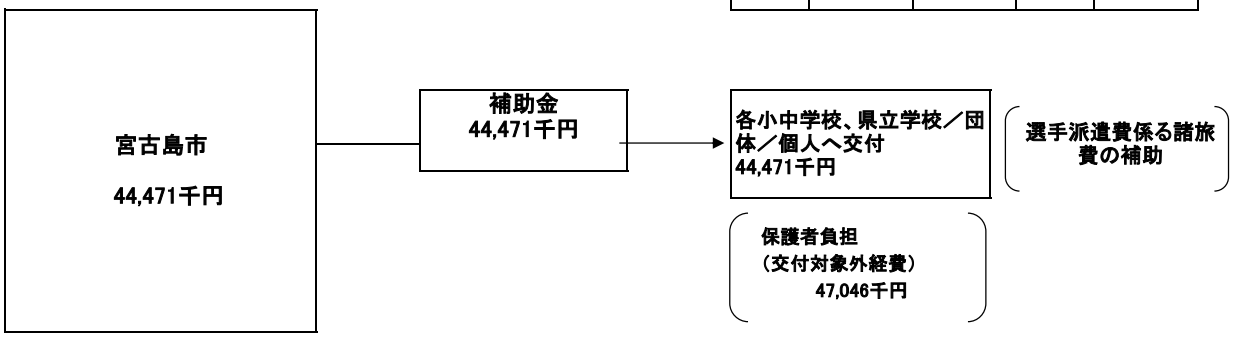
今後の取り組み方針

・補助枠の拡充や補助額の増額を図るため、県内派遣補助拡充のため要綱を改正し、令和7年度から施行する。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
91,517	44,471	35,576	8,895	47,046



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣される児童生徒を取りまとめる学校長・団体代表者・保護者を支出先とすることは適正であったと考える。 ○補助申請件数の見込みが難しく執行率は93.8%となったが、予算規模は事業内容に見合ったものだと考える。 ○航空運賃に対する一部補助であり受益者である保護者の負担もあることから負担関係は妥当であったと考える。 ○費目・使途については、交付要綱に基づいた目的に限定して検査及び交付している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-②	課題を抱える児童生徒の支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－5－(2)－ア 確かな学力を身に着ける学校教育の充実
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	生徒指導上、課題のある児童生徒の生活環境改善のため、個々に応じた支援の充実に向けて、教育委員会にスクールソーシャルワーカーを配置する。 また、課題を抱えた児童生徒が在籍する学校に適切な指導・支援の取り組み強化のために学習支援員を配置する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況 (a) 当初予算額	20,305	21,384	27,252	33,086	31,182
予算の状況 (b) 予算現額	17,968	20,312	25,674	24,867	35,213
予算の状況 (c) 増減額 (b-a)	▲ 2,337	▲ 1,072	▲ 1,578	▲ 8,219	4,031
予算の状況 (d) 繰越額	0	0	0	0	
予算の状況 A. 計 (b+d)	17,968	20,312	25,674	24,867	35,213
B. 執行済額	15785	18,986	20,820	20,395	35,213
うち交付金充当額	12628	15,189	16,656	16,316	28,170
次年度繰越額	0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）	87.9%	93.5%	81.1%	82.0%	100.0%

予算の状況の説明：給与改定等の影響で、4,031千円の事業費増となったが、最終的な執行率は100%となった。

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
スクールソーシャルワーカー：4人 社会福祉士の配置：1人	目　標	（　6人配置　）	（　6人配置　）	（　6人配置　）	（　5人配置　）
	実　績	6人配置	6人配置	4人配置	（　4人配置　）
学習支援員の配置：9人	目　標	（　3人配置　）	（　3人配置　）	（　3人配置　）	（　9人配置　）
	実　績	3人配置	6人配置	5人配置	（　8人配置　）

達成状況説明：
・社会福祉士の配置はできたが、スクールソーシャルワーカー4人目標が3人にとどまった。
・スクールソーシャルワーカーは、市内27校（小学校16校、中学校11校）に1人4校～5校の分担で配置し、支援を要する児童生徒の家庭環境改善に向けて、関係機関に繋ぐ働きかけを行った。
・学習支援員は、9人目標中8人を配置することができた。市内小中学校8校（小学校4校、中学校4校）に配置し、児童生徒の登校支援、学習支援等を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
不登校児童生徒のうち、登校復帰または学びの場へ繋がった児童生徒の割合60%以上	目　標	（　）	（　60%　）	（　60%　）	（　60%　）	（　）
	実　績		35%	15%	35%	

進捗状況説明：
・登校復帰または、学習の場へ繋がった児童生徒の割合は35%で目標に届かなかったが、前年度の実績を上回ることができた。
・スクールソーシャルワーカーや学習支援員による児童生徒や保護者への支援、関係機関との連携が不登校の早期対応や学校復帰、学びの場へ繋がっている。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・目標に届かなかった理由として、子どもたちを取り巻く環境の変化に伴いスクールソーシャルワーカーや学習支援員へのニーズも多様化、複雑化の傾向にある。 ・不登校児童生徒数の増加に伴い、支援対象件数の増加や多種多様なケースへの対応が求められる。 ・継続的に支援を行い不登校児童生徒の将来的な登校復帰、社会的自立に繋げているが、登校復帰とはならなかったケースもある。	・多様化・複雑化に対応する支援体制の強化及び研修等を通してスクールソーシャルワーカーや学習支援員のスキルアップを図る。 ・引き続き課題のある児童生徒及びその保護者に対して、関係機関等と連携をとりながらきめ細かな支援を行い、学校若しくは学校以外の学習の場に繋ぎ、将来的な登校復帰、社会的自立につなげる。 ・学習支援員を増員し、学校のニーズに対応する。 ・スクールソーシャルワーカーや学習支援員へのニーズも多様化、複雑化の傾向にあることから、職務内容を踏まえつつニーズに応じた弾力的な支援も検討する。

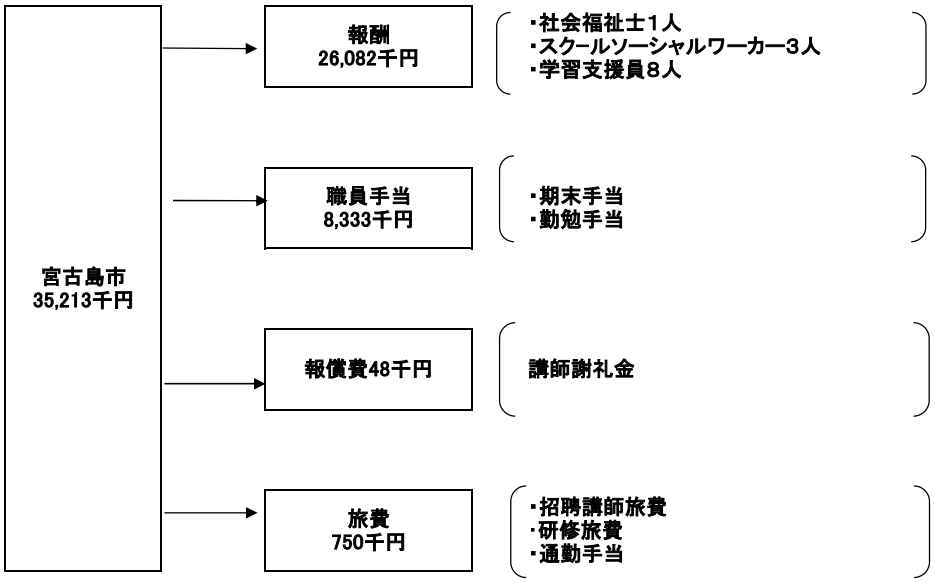
今後の取り組み方針

・学習支援員枠を1名増の10人とし、支援体制の強化を図る。
・文科省より、不登校児童生徒への支援は「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、関係機関と連携し、学校若しくは学校以外の学習の場に繋ぎ、将来的な登校復帰、社会的自立につなげるという指針が示されていることを踏まえ、不登校児童生徒のうち学校及び学校以外の学びの場につながった児童生徒の割合を「毎月の問題行動調査」や年度末の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」で効果を検証する。
・学校との連携がスムーズにいくように学校訪問による事業の周知と生徒指導研修会、校長研修会、教頭研修会などで、効果的な連携支援について推進していく。
・連携を必要とする福祉部や医療や警察など関係機関連絡会の開催を通して、宮古島市全体の状況を共有化し連携を強化する。
・現在のスクールソーシャルワーカーの勤務形態は派遣型であるが、ニーズに応じて学校配置型も検討し、学校との共有体制の強化を図る。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
35,213	35,213	28,170	7,043	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○スクールソーシャエルワーカー等の選定は、専門的な知識や技術経験等に基づき手おり妥当であった。 ○長期実績を踏まえたSSW配置人数は適正でその報酬額は本妻要綱に基づき予算化しており、事業内容に見合った適正規模であったと考える。 ○費目、使途については、報酬を始めSSWの資質向上に向けた研修会派遣など事業目標達成の観点から真に必要であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-③	学校ICT機能強化整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-（3）-イ Society5.0に対応する教育の推進
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施（予定）年度	令和６年度～令和８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）
事業内容	「個別最適な学び」・「協働的な学び」の推進を図る上で、機能強化として校内ネットワークへの接続や学習者用端末と連携が可能な電子黒板や書画カメラなどを整備する。				
効果発現年度	■当年度　■後年度（令和9年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R6年度				
予算の状況	(a) 当初予算額	170,707				
	(b) 予算現額	170,707				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	170,707				
B. 執行済額		165,990				
うち交付金充当額		130,927				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		97.2%				
予算の状況の説明		不用額▲4,717千円は入札による執行残である。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R6年度			
学校ICT機能強化に必要な機器の整備。	目　標	（　125台　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	125台			
達成状況説明	宮古島市小中学校10校に125台液晶型の電子黒板を整備した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R6年度			
学校ICT機能強化に必要な機器の整備完了。	目　標	（　）	（　125台　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		125台			
進捗状況説明	宮古島市小中学校10校に125台液晶型の電子黒板を整備した。					

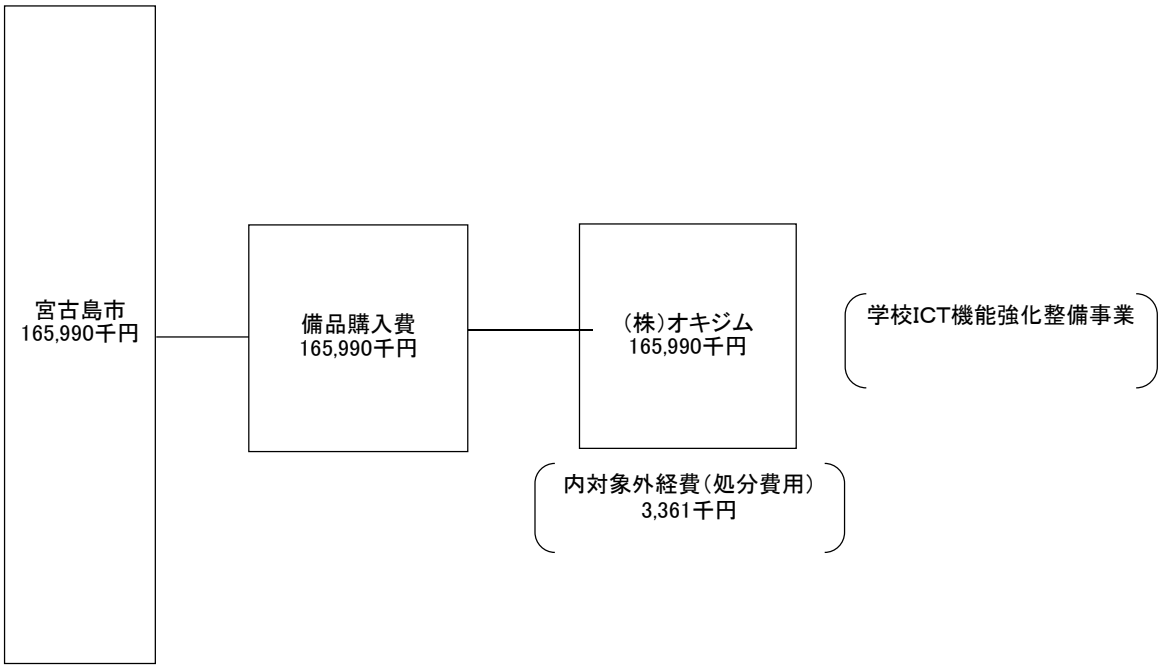
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	契約期間内に電子黒板を整備し、教職員向けの操作研修も実施できた。	整備に関しては、契約期間内に完了したため特に問題ないと考えている。

今後の取り組み方針

令和7年度に125台、令和8年度に100台電子黒板を整備しながら「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」（授業中にICTを活用して指導する能力）83pt以上を目指すため活用に向けた支援を行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
169,351	165,990	130,927	35,063	3,361



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	⑧－1	宮古島市ひとり親家庭生活支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(1)-(ウ) ひとり親家庭等の困難を抱える保護者への支援
担当部課名	こども家庭局　子育て支援課	事業実施（予定）年度	令和5～令和9年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-4-(2)
事業内容	ひとり親家庭世帯の自立を図るため、自立に向けた具体的な目標及び意欲のある世帯に対し、民間アパートを活用した住宅支援や就労支援、子育て支援等を原則1年間行う。				
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）				
実施方法	□直接実施　　■委託　　□補助　　□負担　　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	R5年度	R6年度			
予算の状況 (a) 当初予算額	16,817	16,435			
予算の状況 (b) 予算現額	14,646	16,435			
予算の状況 (c) 増減額 (b-a)	▲ 2,171	0			
予算の状況 (d) 繰越額	0	0			
予算の状況 A. 計 (b+d)	14,646	16,435			
B. 執行済額	10,651	10,802			
うち交付金充当額	8,521	8,641			
次年度繰越額	0	0			
執行率（%）(B/A)	72.7%	65.7%			
予算の状況の説明	不用額▲5,633千円については、予定した支援世帯に達しなかったことにより▲3,579千円減。また、委託業務の確定残により▲2,054千円減となったことが要因である。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
3世帯へ支援実施	目　標	（　3世帯　）	（　3世帯　）	（　　）	（　　）
	実　績	1世帯	2世帯		
達成状況説明	・令和6年度は、前年度から支援している2世帯に対し継続して住宅支援を行い、1世帯は1年間の支援期間を終了し、もう1世帯は、家庭環境の変化により支援期間満了前に支援を終了した。 ・令和6年度に支援した世帯に対しては、住宅支援を行いながら、就労支援、家計管理についての助言を行った。 ・就労支援については、転職、就職に有利な簿記に関する基礎的な技術の習得を目的に、技術力向上支援事業「日商簿記3級講座」を実施し、14回の講座を開催した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（　年度）
本事業により自立に向けて生活改善した世帯の割合　100%	目　標	（　　）	（　65%　）	（　100%　）	（　　）	（　　）
	実　績		58%	100%		
進捗状況説明	住宅支援の他に就労支援、家計管理支援、子育て支援を行うことで、支援前に比べて就労形態が正職員として採用、家計の見直し及び子の不登校並びに生活の改善をすることができた。					

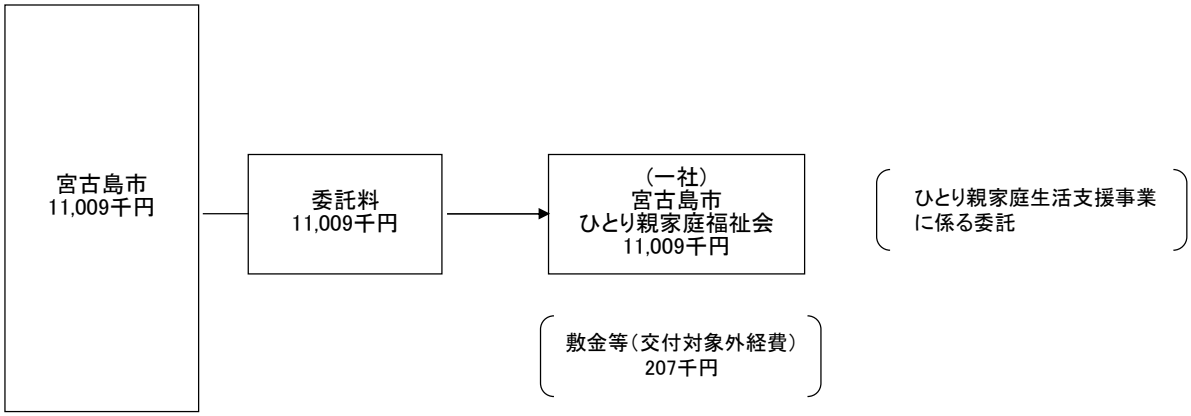
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・事業に関する相談、問い合わせはあるが、児童扶養手当を受給していない等で支援対象とならないケースがあり、対象者への周知が十分ではない。	・目標としている支援対象3世帯を達成するため、引き続き関係機関及び対象者となる児童扶養手当受給者に向けた周知を行う必要がある。

今後の取り組み方針

・支援対象3世帯の目標に達することができなかったことから、引き続き関係機関及び対象者となる児童扶養手当受給者に向けた周知に取り組む。また、附帯事業を通して、安定した就業へ繋がることができるよう、就職・転職に活用出来る講座等の開講に取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,009	10,802	8,641	2,161	207



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、ひとり親家庭や寡婦の方を会員として、その支援を長年行っている団体であり、ひとり親家庭への様々な支援を行っている。本市では他に同様の実績がある団体はなく、委託先の選定は妥当であったと考える。 ○相談窓口、支援への対応のための人材確保など、事業内容に見合った適正な予算規模となっている。 ○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、事業目的達成に必要なものであり、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	